



《参考資料1》

少子化対策の検討に関する基礎資料 統計データ分析

令和6年2月13日(火)

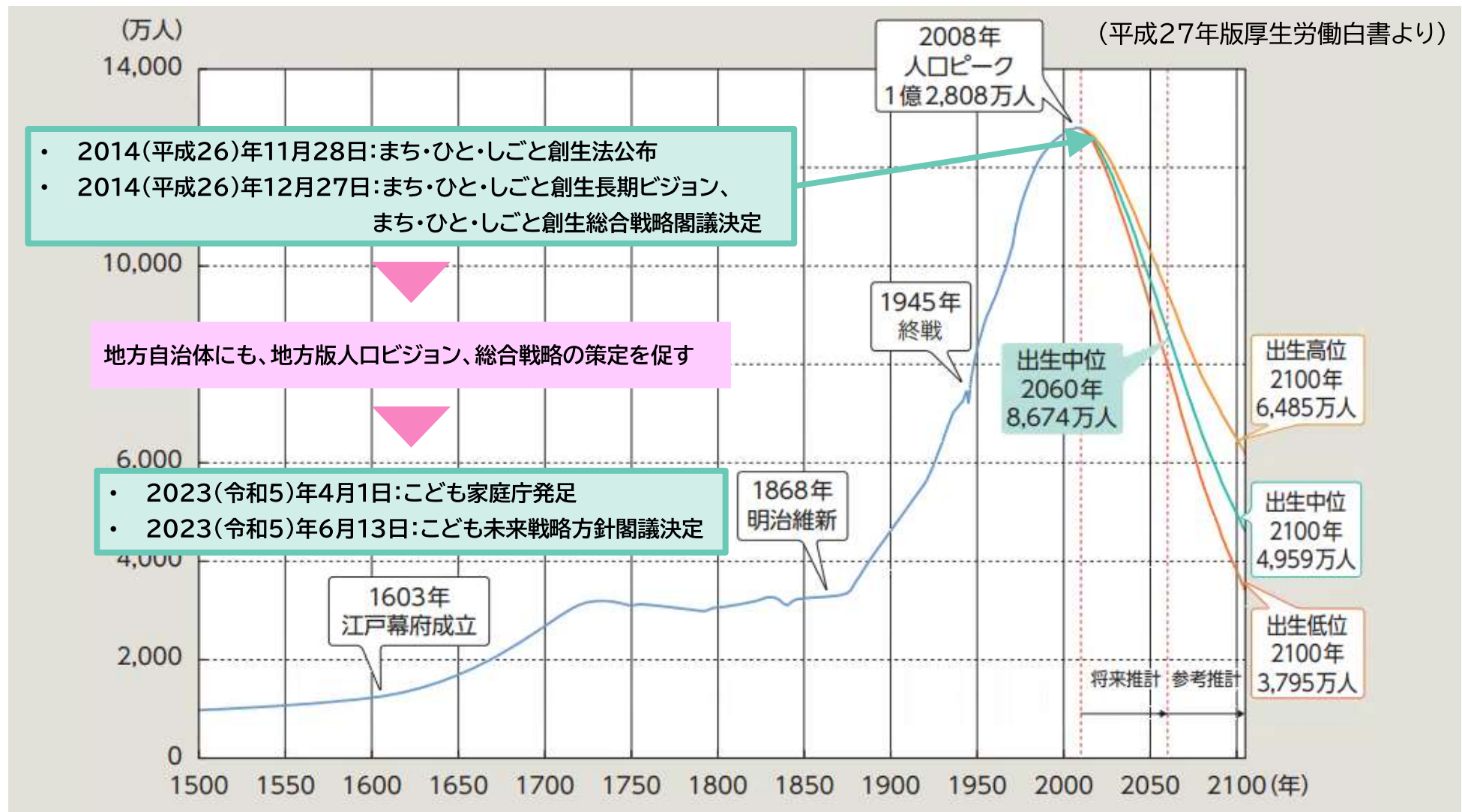
臨時庁議

目次

1. 我が国の人口P1～P3
(人口推移・将来推計、出生数・合計特殊出生率、完結出生児数)
2. 龍ヶ崎市の人口P4～P12
(人口推移・将来推計、13地区ごとの将来推計人口、人口動態(自然動態・社会動態))
3. 合計特殊出生率P13～P21
(年齢別女性の合計特殊出生率、人口推移、出生数)
4. こどもの人数P22～P25
(1年後の状況、年度ごとの経年変化)
5. 近隣市町村との比較P26～P35
(合計特殊出生率、年少人口指数、配偶関係、結婚・第1子～3子までの平均出産年齢)
6. 家庭におけるこどもの人数P36～P37
(第1子～第4子以降までの状況)
7. ライフステージに応じた市の取組P38～P39
(こども未来戦略方針(加速化プラン)追記)

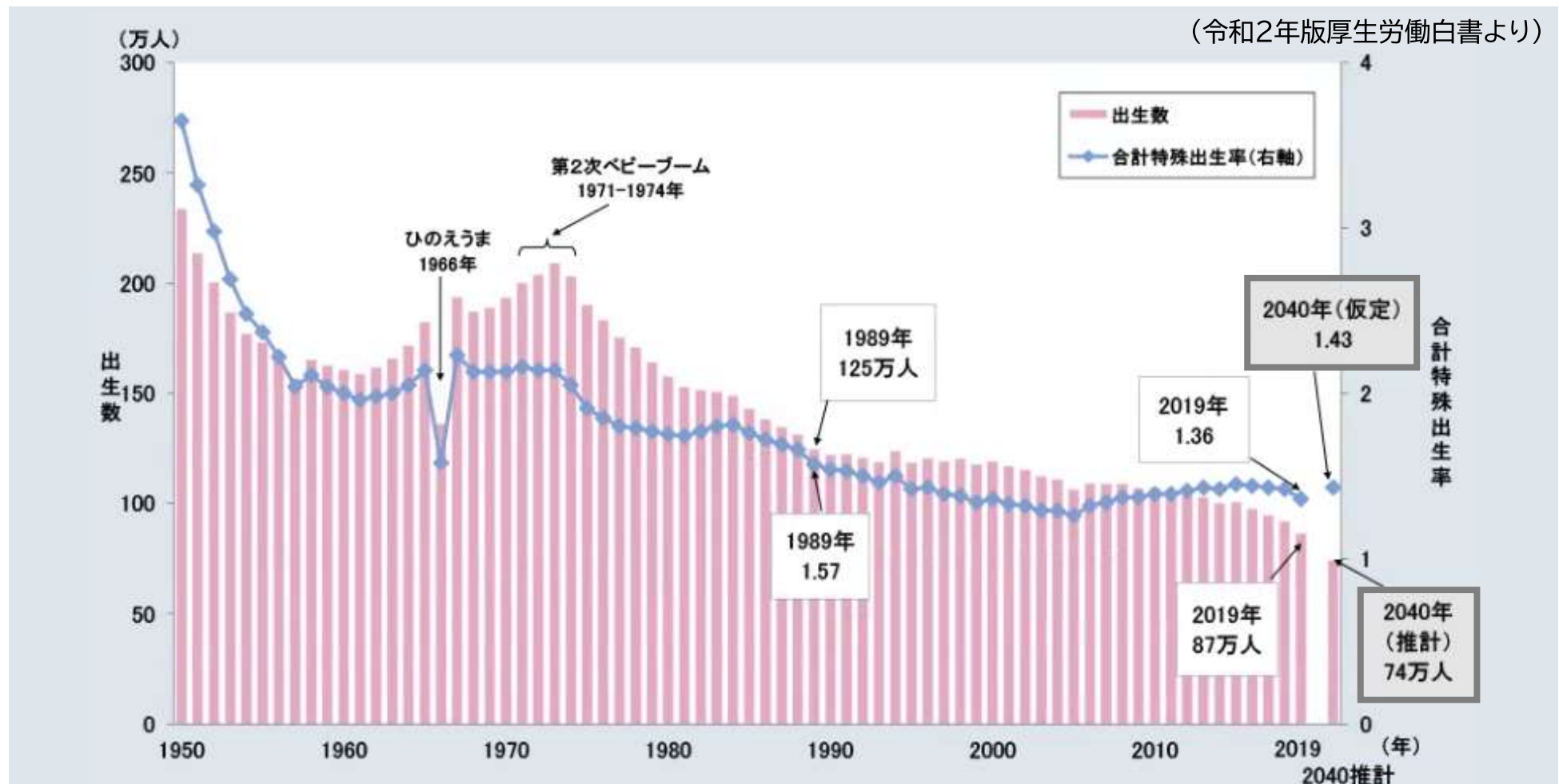
日本全体の人口の推移

- 我が国の人口は、2008_(H20)年の1億2,808万人をピークに減少に転じる
- 国は、人口減少・将来推計を踏まえ、2014_(H26)年に「まち・ひと・しごと創生法」を公布
- 我が国の人口は、今後も減少することが見込まれる



出生数、合計特殊出生率の推移

- 1940年代後半の第1次ベビーブーム、1970年代の第2次ベビーブームでは、出生数が増加基調にあったが、1990年代後半に第3次ベビーブームは起きなかった
- 現在の人口を維持するための合計特殊出生率2.07以上は、第2次ベビーブーム時の合計特殊出生率と同等

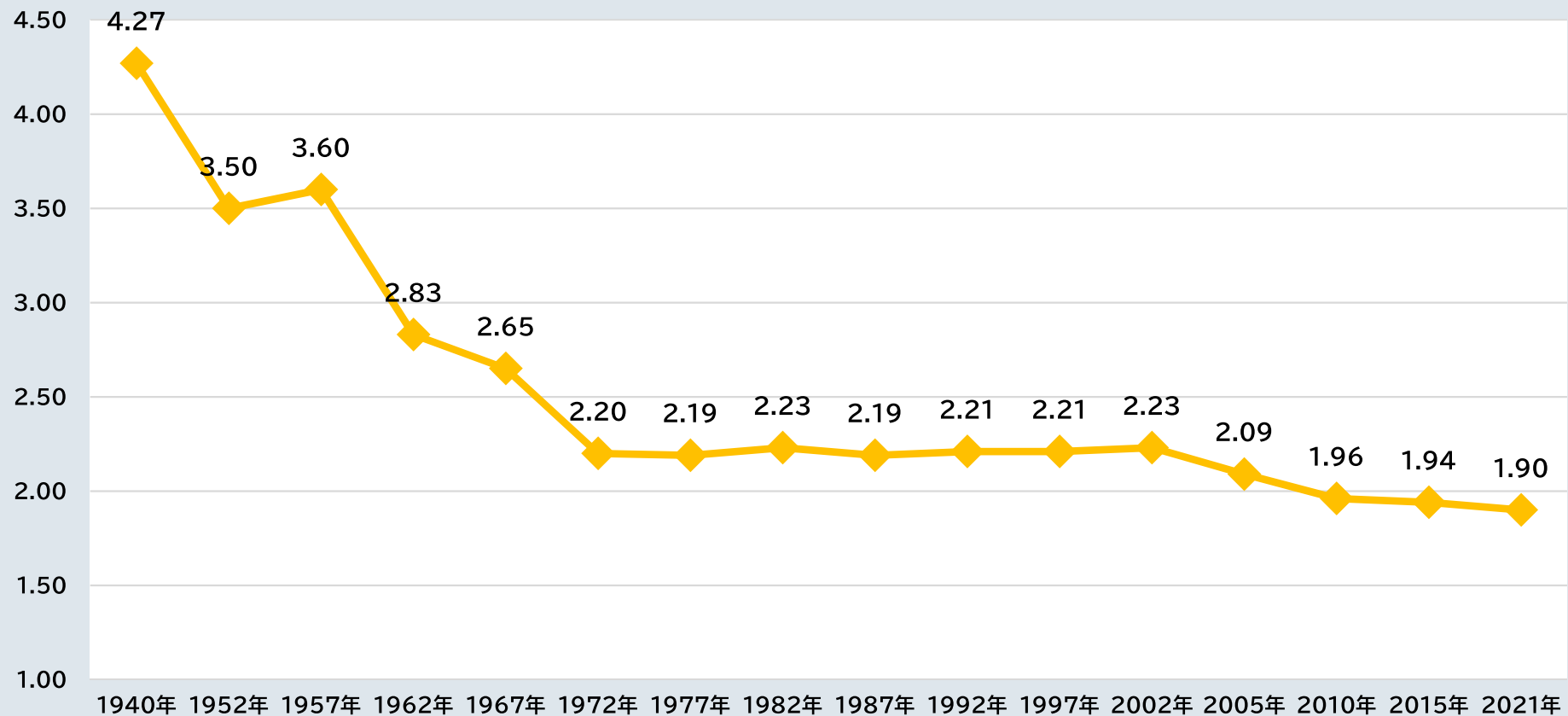


※合計特殊出生率:15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの平均子ども数を示す。(現在の人口を維持するためには、2.07以上を保つことが必要)

完結出生児数の推移

- 完結出生児数は、1970年代から2002年までは、2.2人前後で安定的に推移
- 2005(H17)年から減少傾向となり、2010(H22)年に2.0を下回る(第1子のみ、または子ども持たない夫婦が増加傾向)
- 我が国は、少子化の進行に伴い、今後も人口減少が進行することが見込まれる

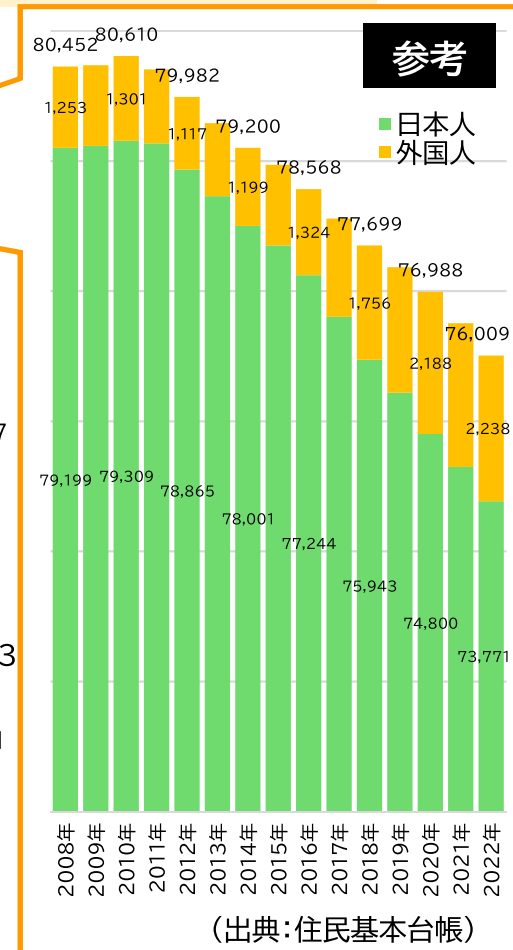
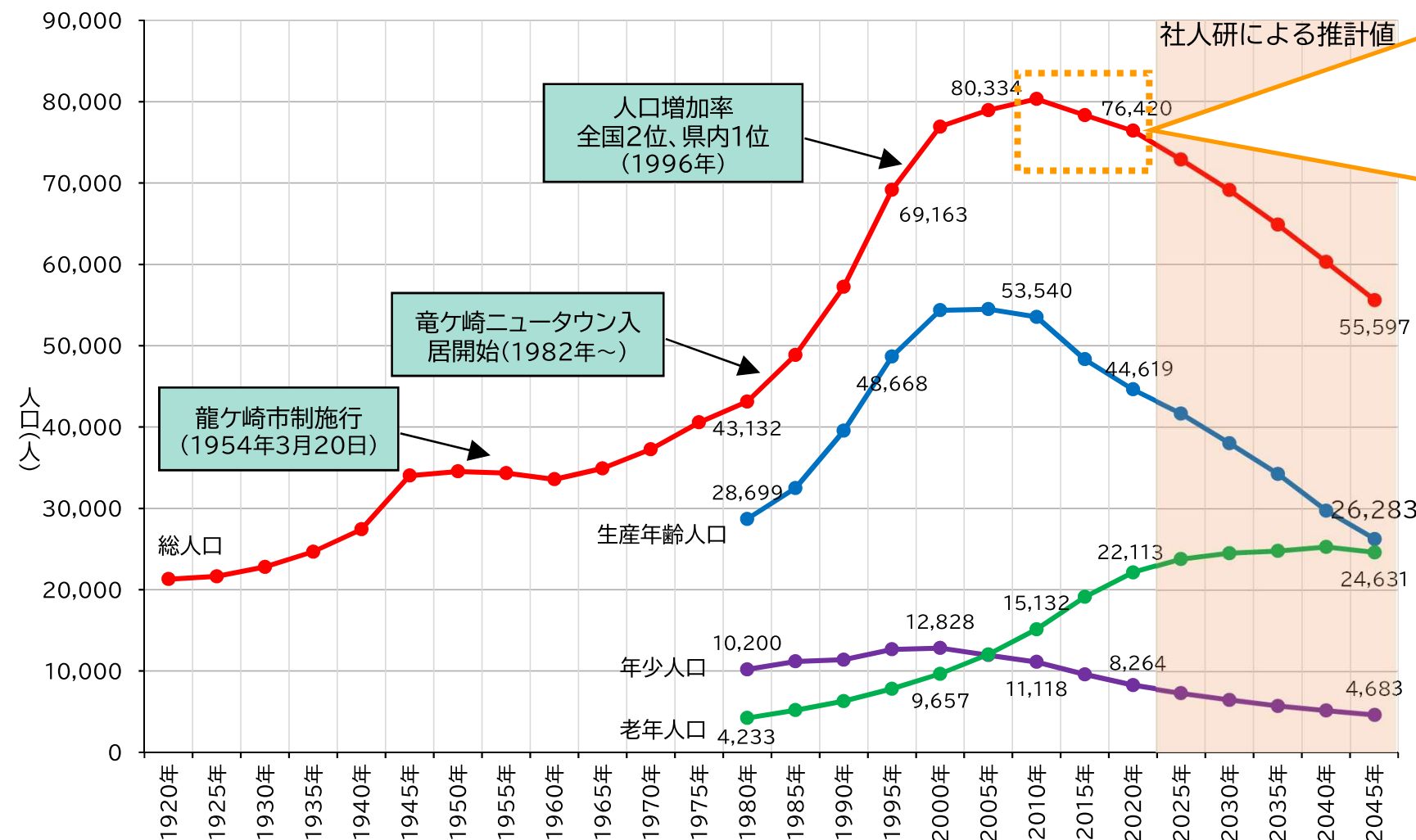
(社人研ホームページより)



※完結出生児数:結婚持続期間(結婚からの経過期間)15~19年夫婦の平均出生子ども数を示す。

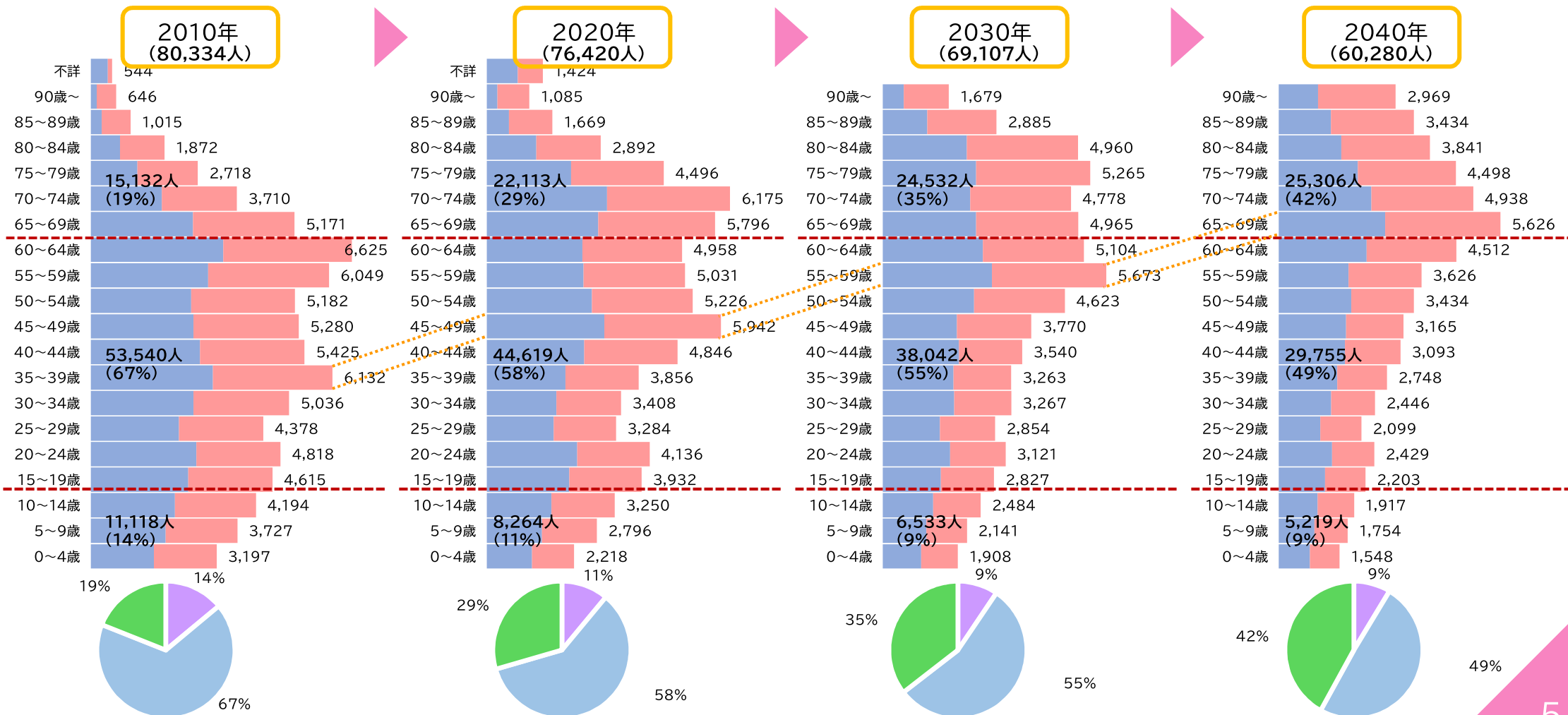
龍ヶ崎市の人口の推移・将来推計

- 龍ヶ崎市の人口は、2010_(H22)年の80,334人をピークに減少に転じる
- 2005_(H17)年に年少人口と老年人口が同程度
- 2045_(R27)年に生産年齢人口と老年人口が同程度
- 日本人の人口は減少傾向に対し、外国人の人口は増加傾向



人口構成(男女)の将来推計

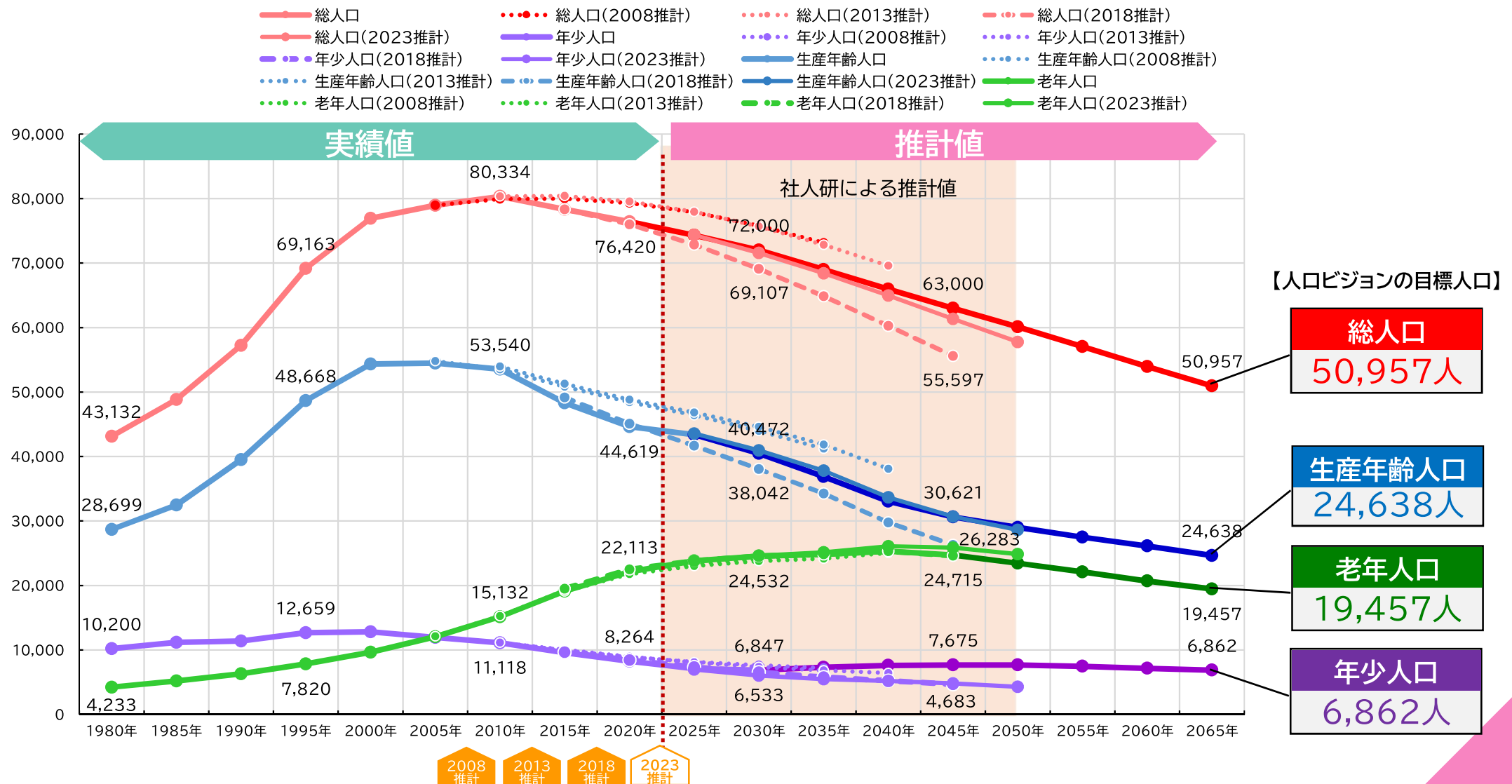
- 人口のピークであった2010(H22)年の、年少人口の割合は14%、生産年齢人口の割合は67%、老年人口の割合は19%
- 30年後にあたる2040(R22)年の、年少人口の割合は9%、生産年齢人口の割合は49%、老年人口の割合は42%
- 2010年と2040年を比較すると、少子高齢化の進行がより顕著となる



(出典: 社人研推計(2018年))

人口ビジョン(2022年度改定版)による目標人口

- 人口ビジョン(2022年度改定版)では、2065(R47)年の目標人口(総人口)を50,957人
- 社人研による推計値では、2045(R27)年の人口は55,597人
- 社人研は、2023(R5)年に最新の将来推計人口を公表



13地区ごとの将来推計人口(一例)

- 国土交通省 国土技術政策総合研究所(通称:国総研)の将来人口・世帯予測ツールV2により、地区別の将来推計人口を試算
- 地区によっては、大幅な人口減少・少子高齢化が見込まれる
- 国総研のツールは、2015(H27)年までの国勢調査をもとに将来推計人口を試算
- 社人研の最新(2023(R5)年)の推計値をもとに、国総研は将来人口・世帯予測ツールV2をバージョンアップする予定

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
龍ヶ崎地区	11,972	11,670	10,682	9,924	9,213	8,631	7,856	7,180	6,485	5,776	5,200
大宮地区	4,491	4,212	4,021	3,771	3,385	3,099	2,799	2,477	2,156	1,856	1,565
長戸地区	2,645	2,444	2,346	2,205	1,942	1,723	1,527	1,358	1,192	1,036	900
八原地区	1,364	7,058	9,456	10,877	11,681	11,863	11,918	11,885	11,816	11,700	11,462
馴染地区	12,435	12,941	12,742	13,612	12,935	12,539	11,983	11,275	10,488	9,681	8,864
川原代地区	554	4,283	4,295	4,138	3,837	3,591	3,310	3,007	2,698	2,407	2,132
北文間地区	3,957	3,804	3,576	3,220	2,832	2,544	2,261	1,969	1,669	1,373	1,071
龍ヶ崎西地区	6,913	6,564	6,185	5,959	5,598	5,368	5,053	4,663	4,262	3,863	3,489
松葉地区	6,067	5,957	5,733	5,303	4,813	4,498	4,158	3,728	3,185	2,610	2,095
長山地区	4,340	4,955	4,947	4,894	4,941	4,981	4,944	4,807	4,612	4,293	3,928
馴染台地区	4,340	5,210	5,413	5,688	5,653	5,583	5,456	5,275	5,022	4,741	4,452
久保台地区	2,324	5,103	5,787	6,032	6,051	6,022	5,953	5,879	5,721	5,449	5,072
城ノ内地区	335	2,714	3,756	4,694	5,453	5,574	5,632	5,619	5,546	5,472	5,343
合計	61,737	76,915	78,939	80,317	78,334	76,016	72,850	69,122	64,852	60,257	55,573
(参考:社人研)						76,005	72,859	69,107	64,858	60,280	55,597

13地区ごとの将来推計人口(一例)

国総研

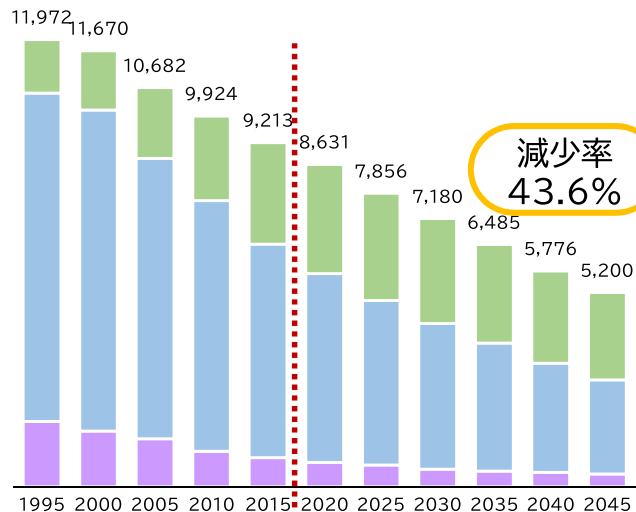
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
年少人口	9,742	8,434	7,355	6,521	5,787	5,219	4,679
生産年齢人口	49,147	45,109	41,684	38,059	34,258	29,746	26,266
老年人口	19,445	22,473	23,811	24,542	24,807	25,292	24,628
合 計	78,334	76,016	72,850	69,122	64,852	60,257	55,573

13地区の
積み上げ

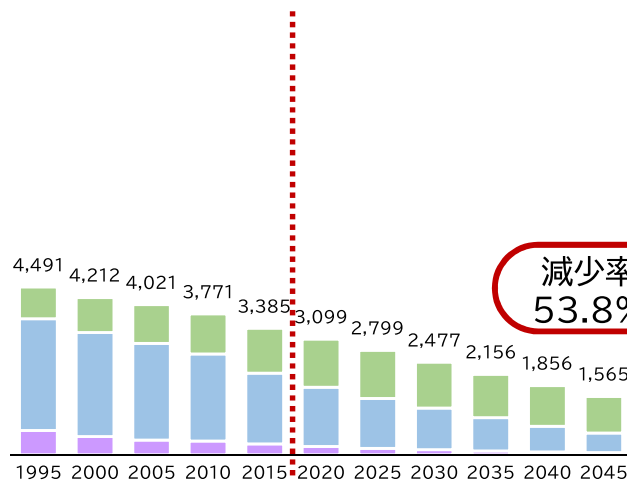
社人研

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
年少人口	9,663	8,429	7,356	6,533	5,788	5,219	4,683
生産年齢人口	49,175	45,096	41,684	38,042	34,261	29,755	26,283
老年人口	19,504	22,480	23,819	24,532	24,809	25,306	24,631
合 計	78,342	76,005	72,859	69,107	64,858	60,280	55,597

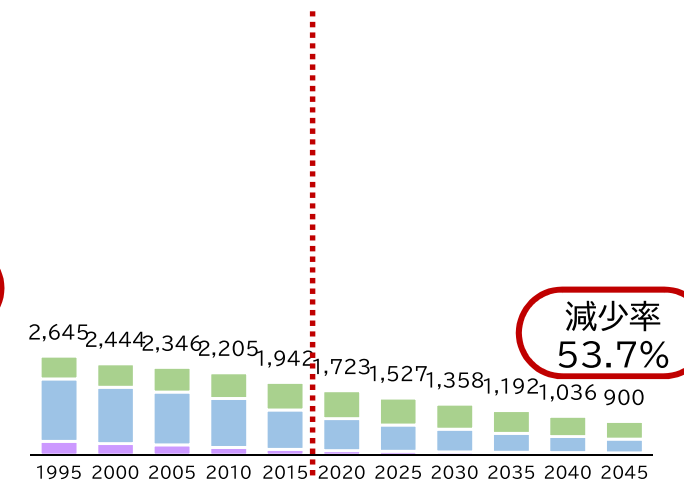
龍ヶ崎地区

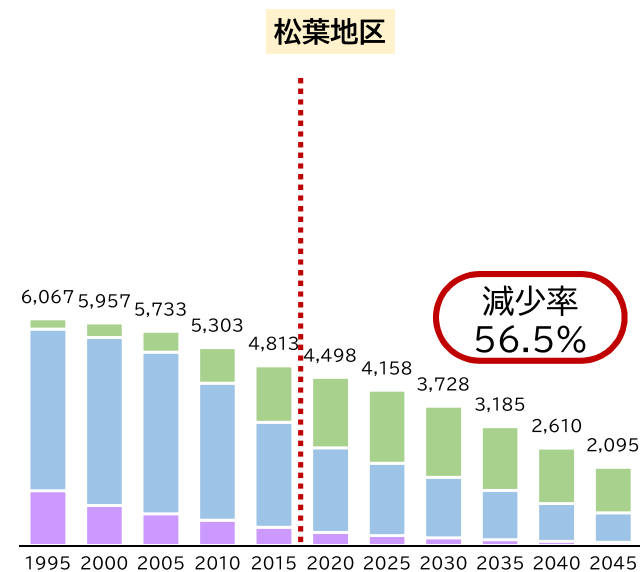
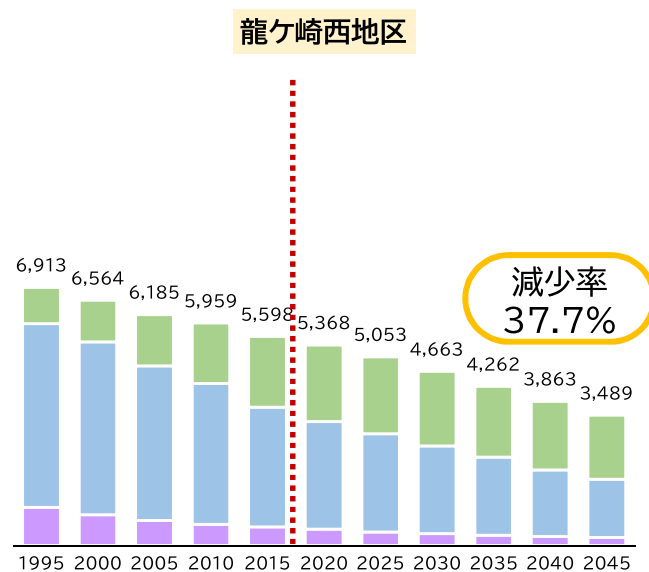
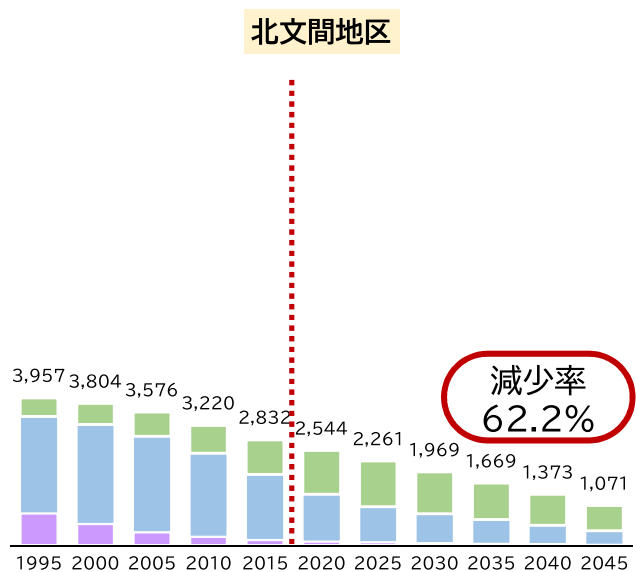
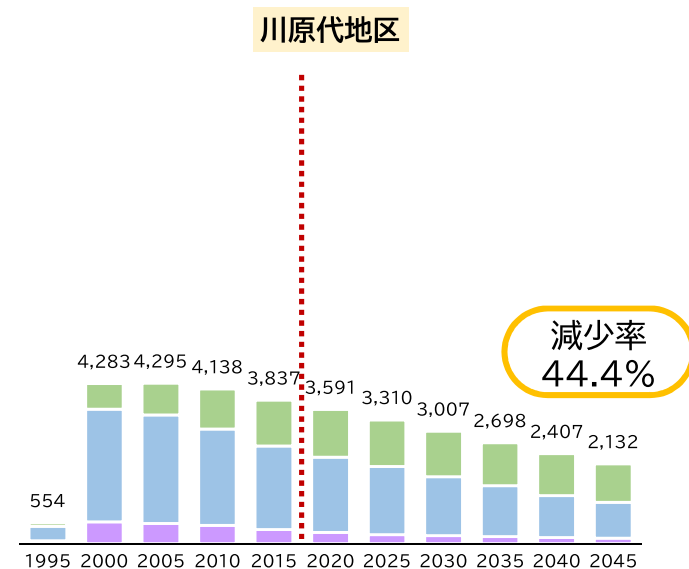
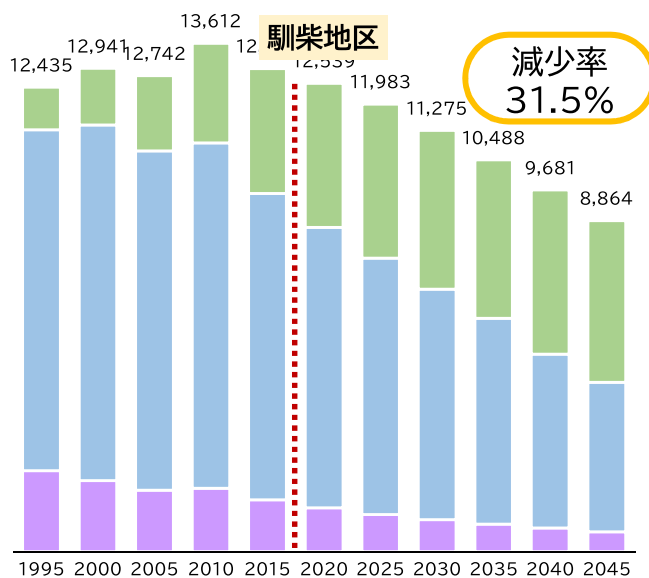
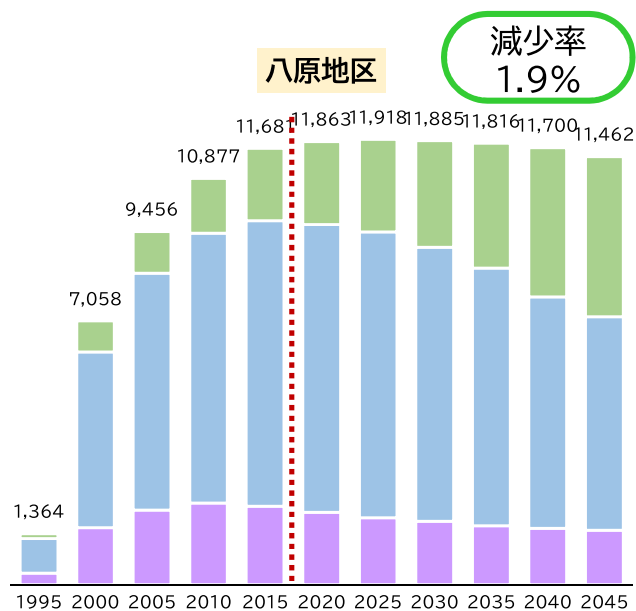


大宮地区



長戸地区



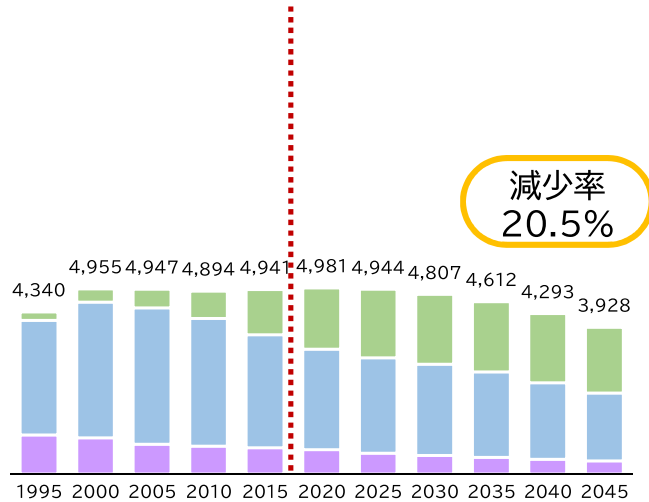


■年少人口 ■生産年齢人口 ■老年人口

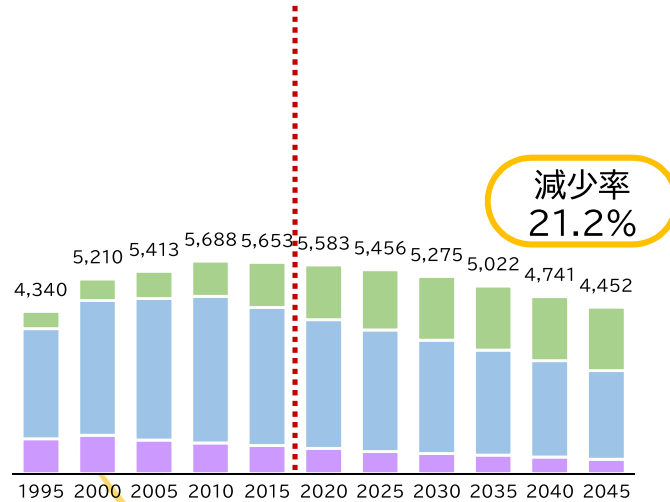
※減少率:2015年と2045年を比較

13地区ごとの将来推計人口(一例)

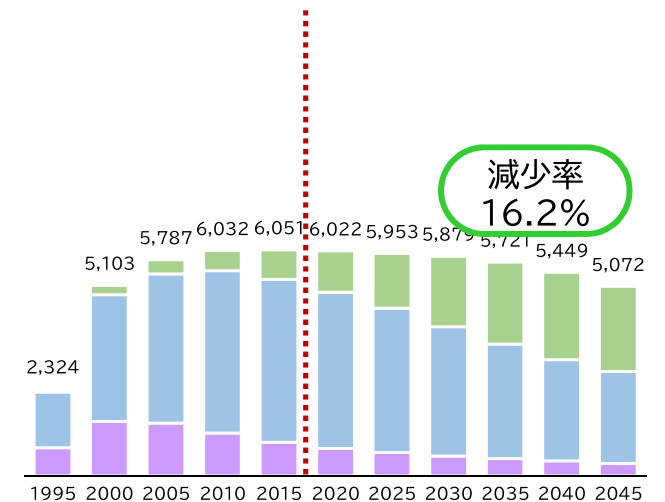
長山地区



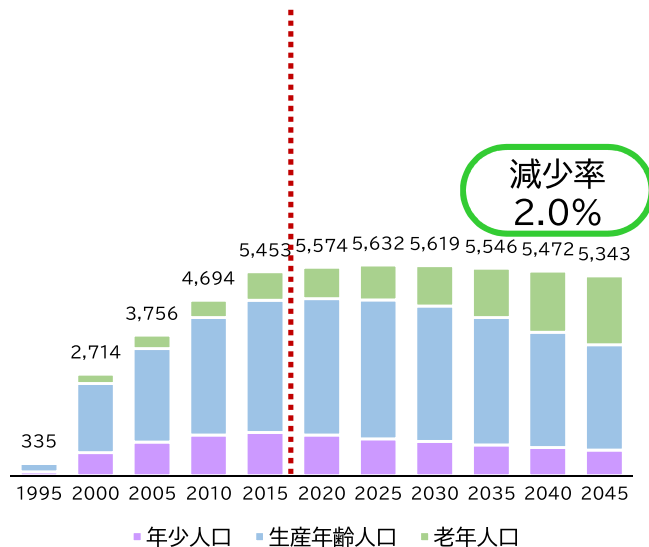
馴馬台地区



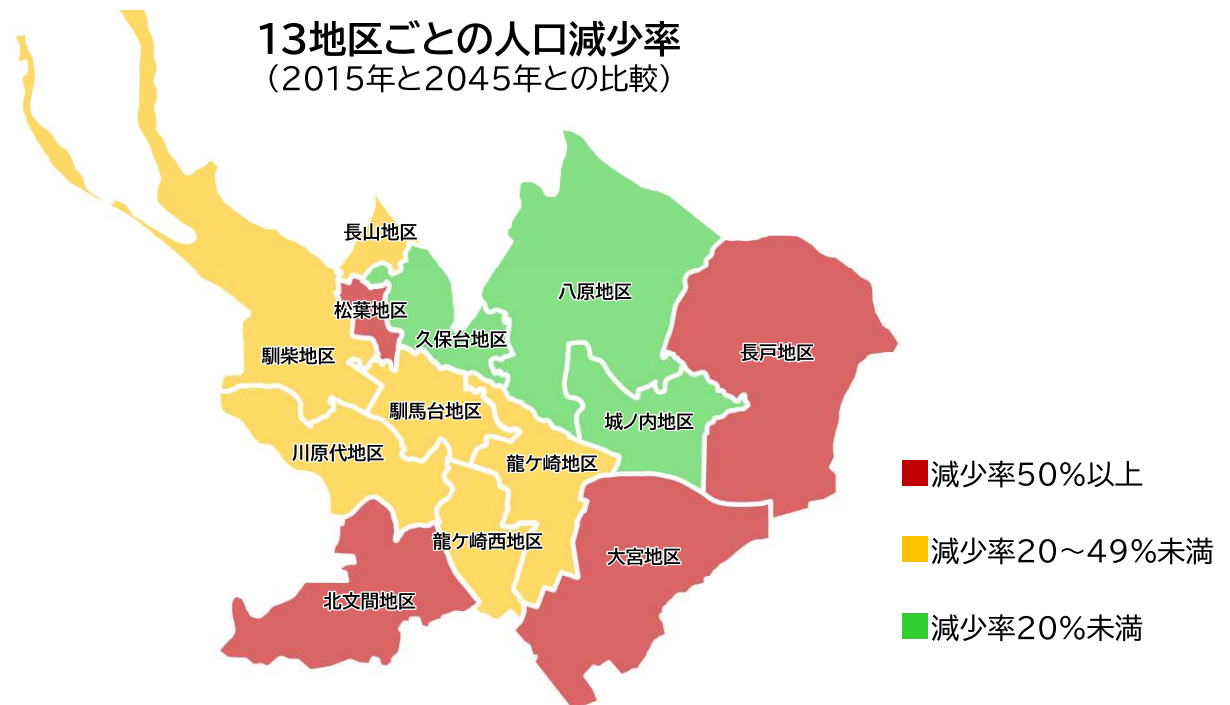
久保台地区



城ノ内地区



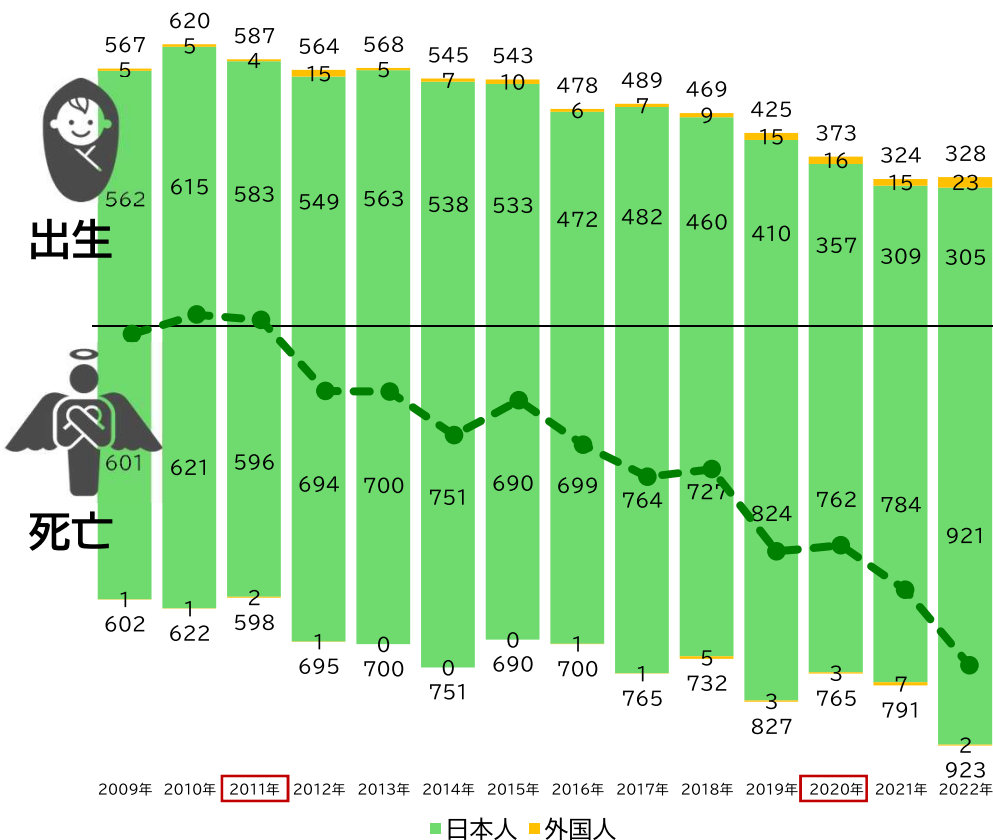
13地区ごとの人口減少率
(2015年と2045年との比較)



人口動態(自然動態・社会動態)の推移

自然動態

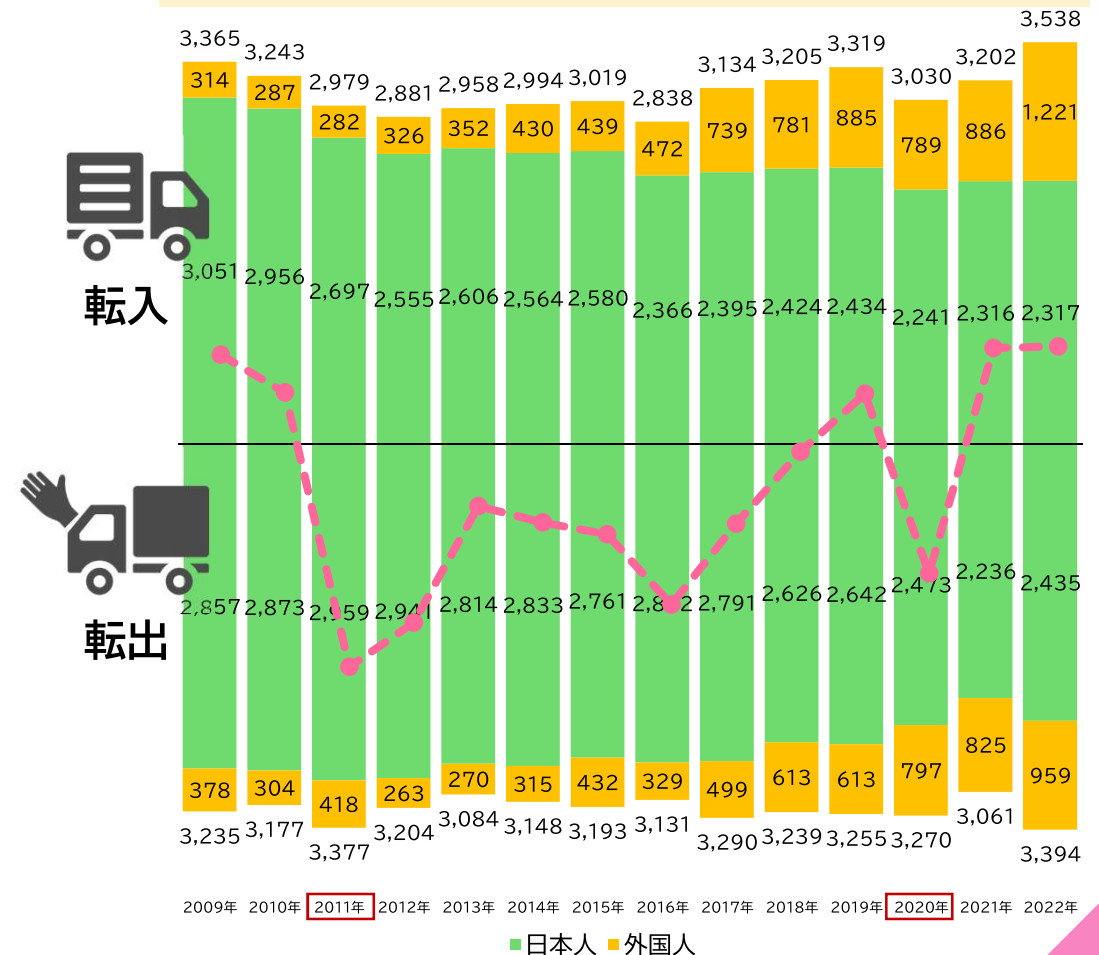
- 少子高齢化(生産年齢人口の減少)に伴い、出生数は減少傾向、死亡数は増加傾向
- 出生・死亡とも、日本人の占める割合が大半



(出典: 常住人口調査)

社会動態

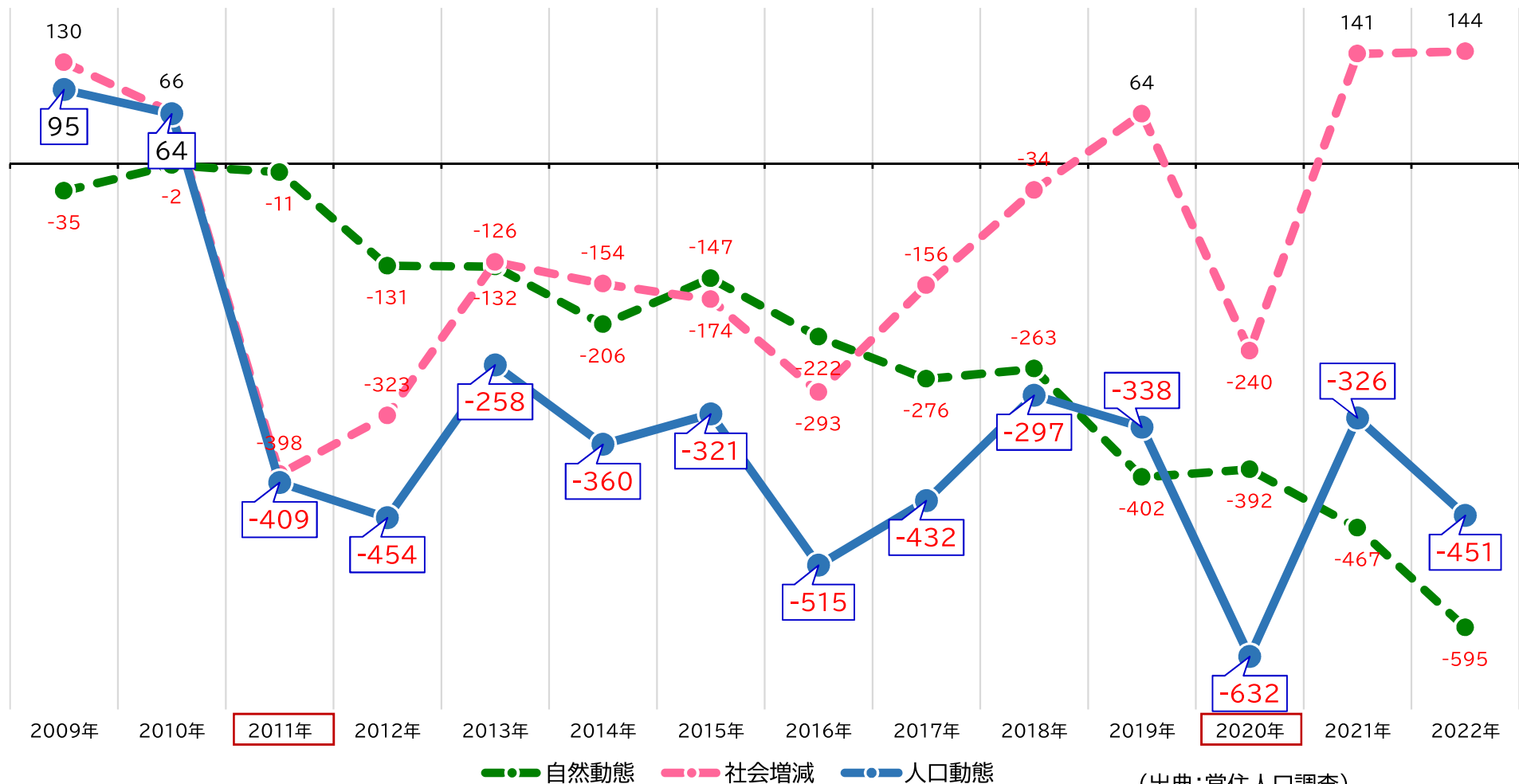
- 2011年、2020年は他の年より転出超過が顕著
- 2021年以降は、転入超過(2019年も転入超過)
- 転入では、日本人は減少傾向、外国人は増加傾向



(出典: 常住人口調査)

人口動態(自然動態・社会動態)の推移・差し引き

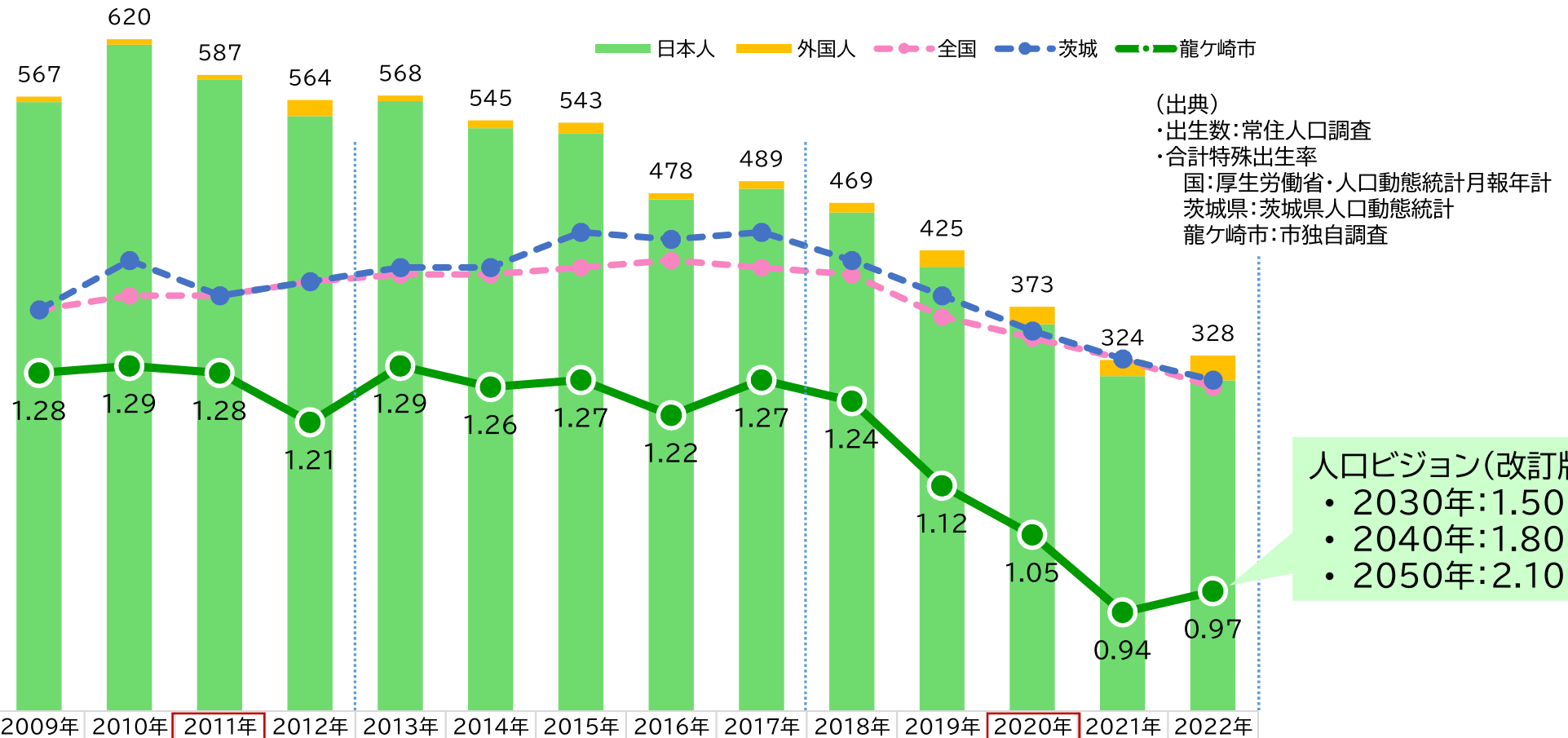
- ・ 自然動態は、少子高齢化の進行に伴い、今後も減少傾向が見込まれる
- ・ 社会動態は、移住・定住のほか、社会経済情勢により変動
- ・ 人口動態は、自然減が社会増を上回るため、今後も減少傾向が見込まれる



(出典: 常住人口調査)

出生数・合計特殊出生率の推移

- ・ 龍ヶ崎市の合計特殊出生率は、国及び茨城県平均を下回る
- ・ 2019(R1)年に1.1台に減少し、2021(R3)年には1.0を下回る



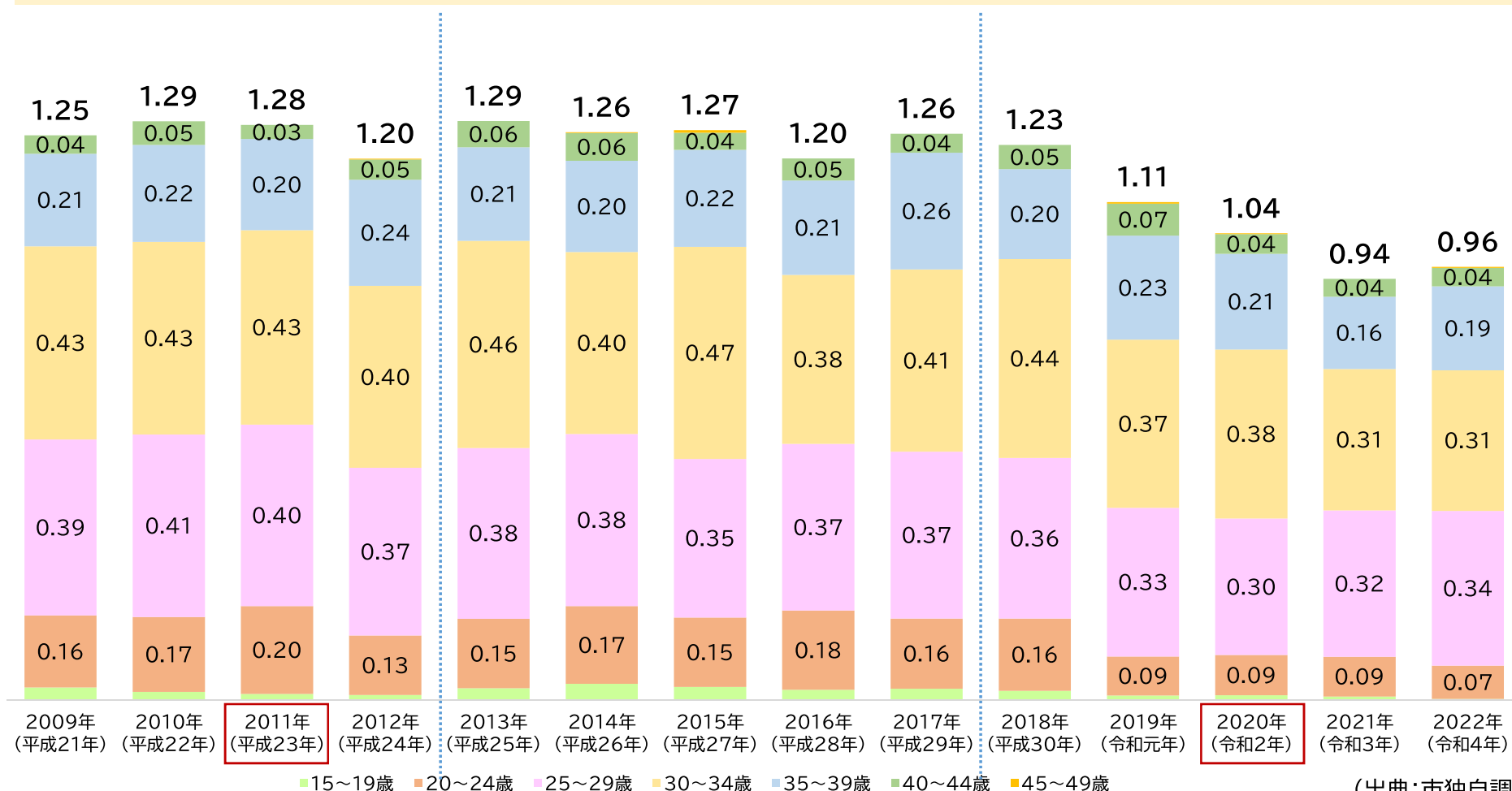
人口ビジョン(改訂版)
 ・ 2030年: 1.50
 ・ 2040年: 1.80
 ・ 2050年: 2.10

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
出生数	567	620	587	564	568	545	543	478	489	469	425	373	324	328
外国人	5	5	4	15	5	7	10	6	7	9	15	16	15	23
日本人	562	615	583	549	563	538	533	472	482	460	410	357	309	305
全国	1.37	1.39	1.39	1.41	1.42	1.42	1.43	1.44	1.43	1.42	1.36	1.33	1.30	1.26
茨城	1.37	1.44	1.39	1.41	1.43	1.43	1.48	1.47	1.48	1.44	1.39	1.34	1.30	1.27
龍ヶ崎市	1.28	1.29	1.28	1.21	1.29	1.26	1.27	1.22	1.27	1.24	1.12	1.05	0.94	0.97

年齢別女性の合計特殊出生率の推移

- 合計特殊出生率を年齢別女性で見ると、30～34歳、35～39歳の割合が大半を占める
- 2020(R2)年までは30～34歳の割合が高かったが、2021(R3)年以降、20～24歳が上回る

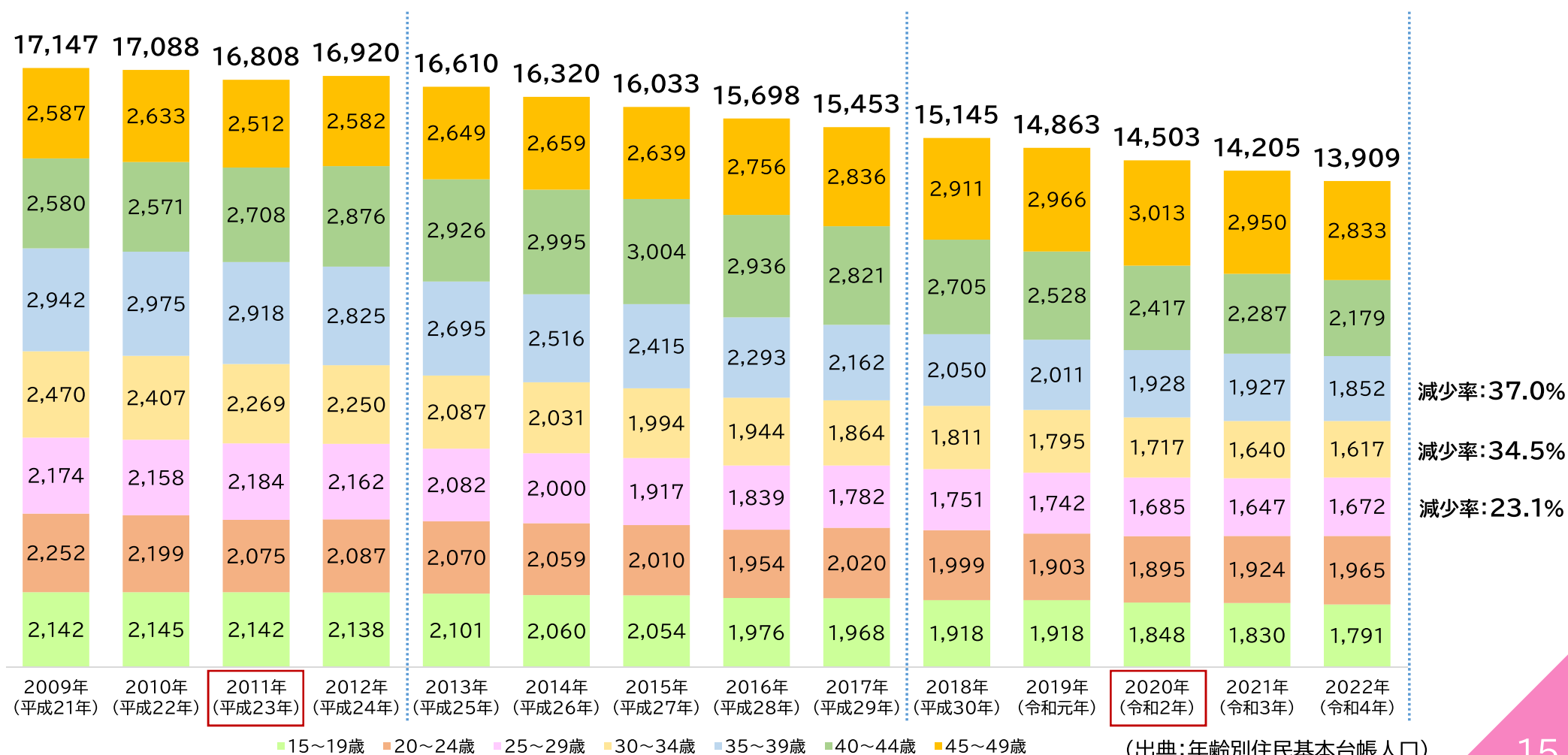
$$\text{合計特殊出生率} = \left(\frac{15\sim19\text{歳の女性の出生数}}{15\sim19\text{歳の女性人口}} + \frac{20\sim24\text{歳の女性の出生数}}{20\sim24\text{歳の女性人口}} + \frac{25\sim29\text{歳の女性の出生数}}{25\sim29\text{歳の女性人口}} + \frac{30\sim34\text{歳の女性の出生数}}{30\sim34\text{歳の女性人口}} + \frac{35\sim39\text{歳の女性の出生数}}{35\sim39\text{歳の女性人口}} + \frac{40\sim44\text{歳の女性の出生数}}{40\sim44\text{歳の女性人口}} + \frac{45\sim49\text{歳の女性の出生数}}{45\sim49\text{歳の女性人口}} \right) \times 5$$



(出典:市独自調査)

年齢別女性人口の推移

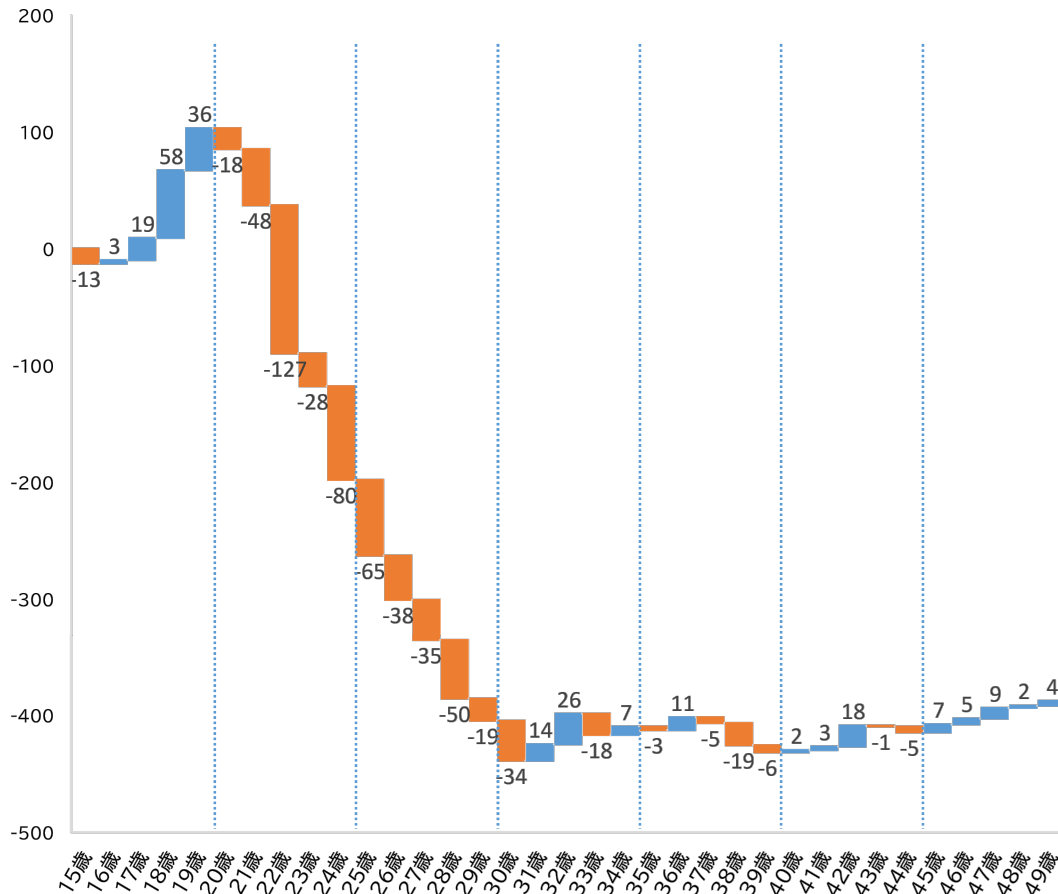
- ・ 合計特殊出生率を算出する際の「分母」となる女性人口は減少傾向
- ・ 特に、35～39歳の女性人口は大幅な減少傾向にあり、次いで、30～34歳、25～29歳の女性人口が減少傾向
- ・ 45～49歳の女性の人口は増加傾向



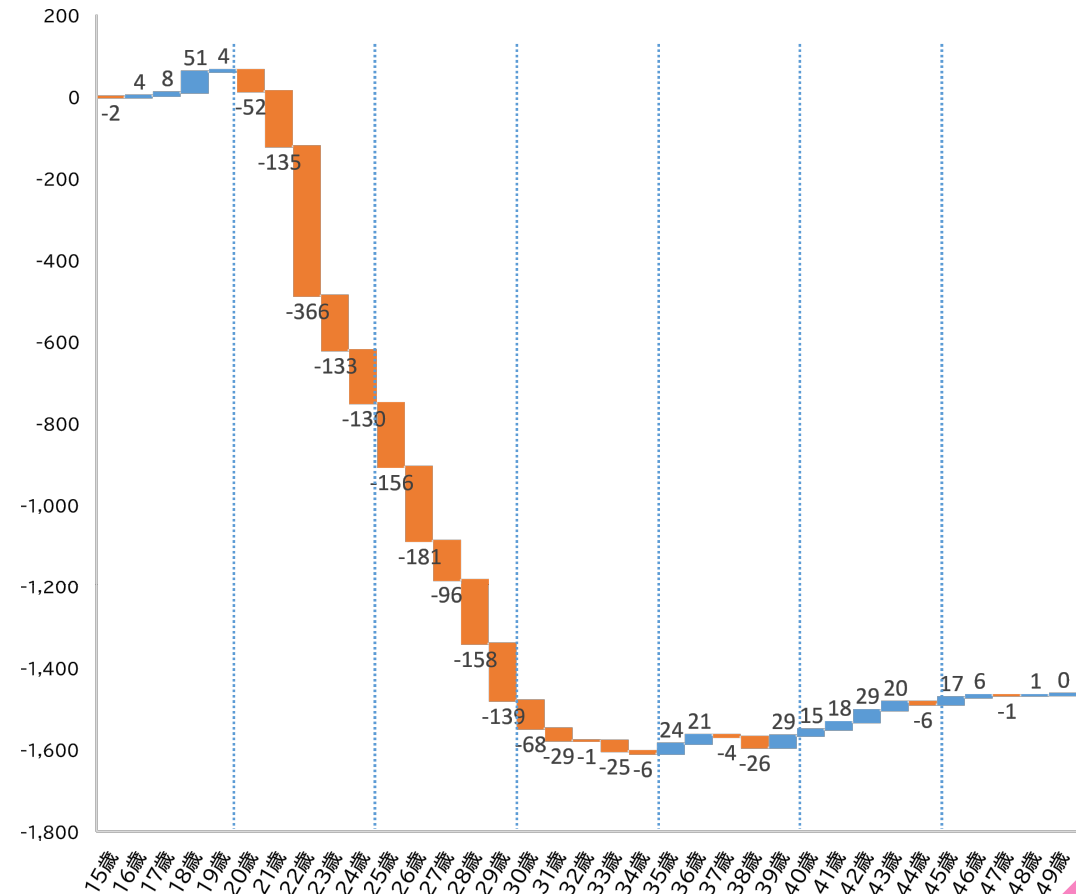
15歳～49歳女性人口(1歳刻み)の推移

- 直近5年間に於ける15歳～49歳の女性人口の推移は、20歳から30歳まで減少基調
- 特に22歳の減少幅(転出数)が多い
- 31歳以降は増減を繰り返すが、結果的に増加傾向

2017年～2022年まで(直近5年間)の女性の人口動態



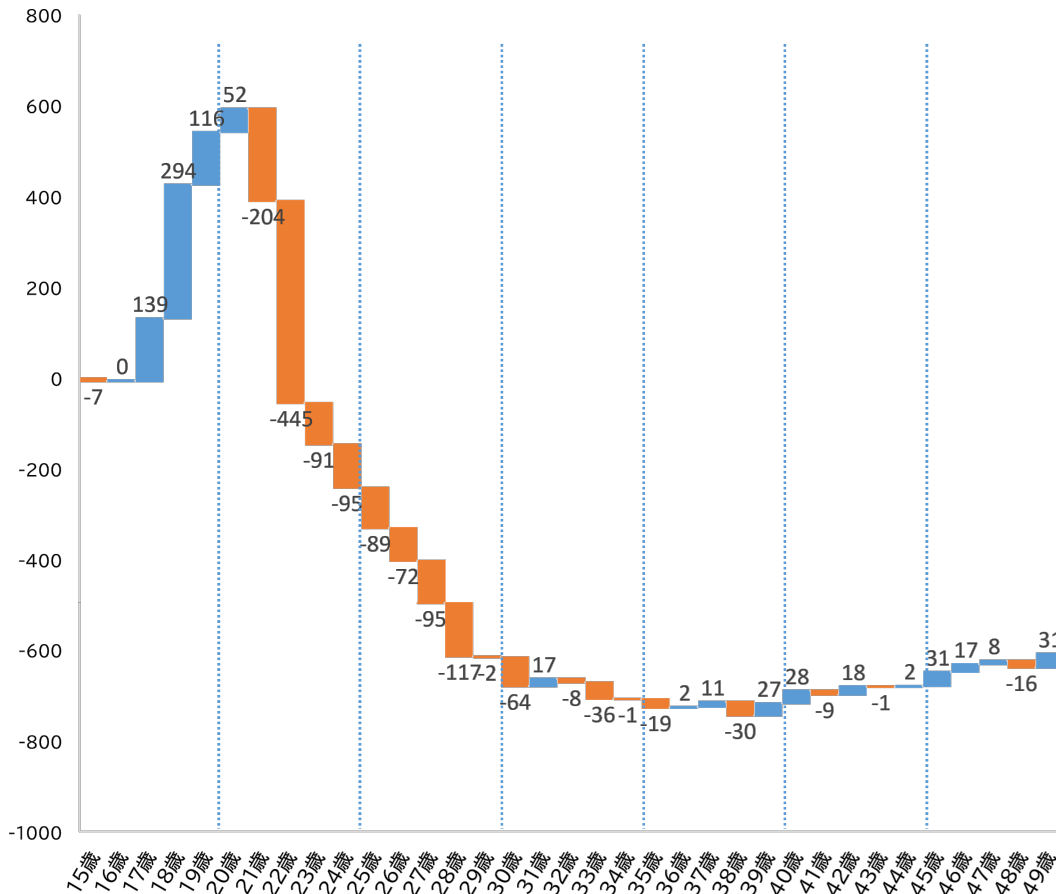
【参考】2009年～2022年まで(過去14年間)の女性の人口動態



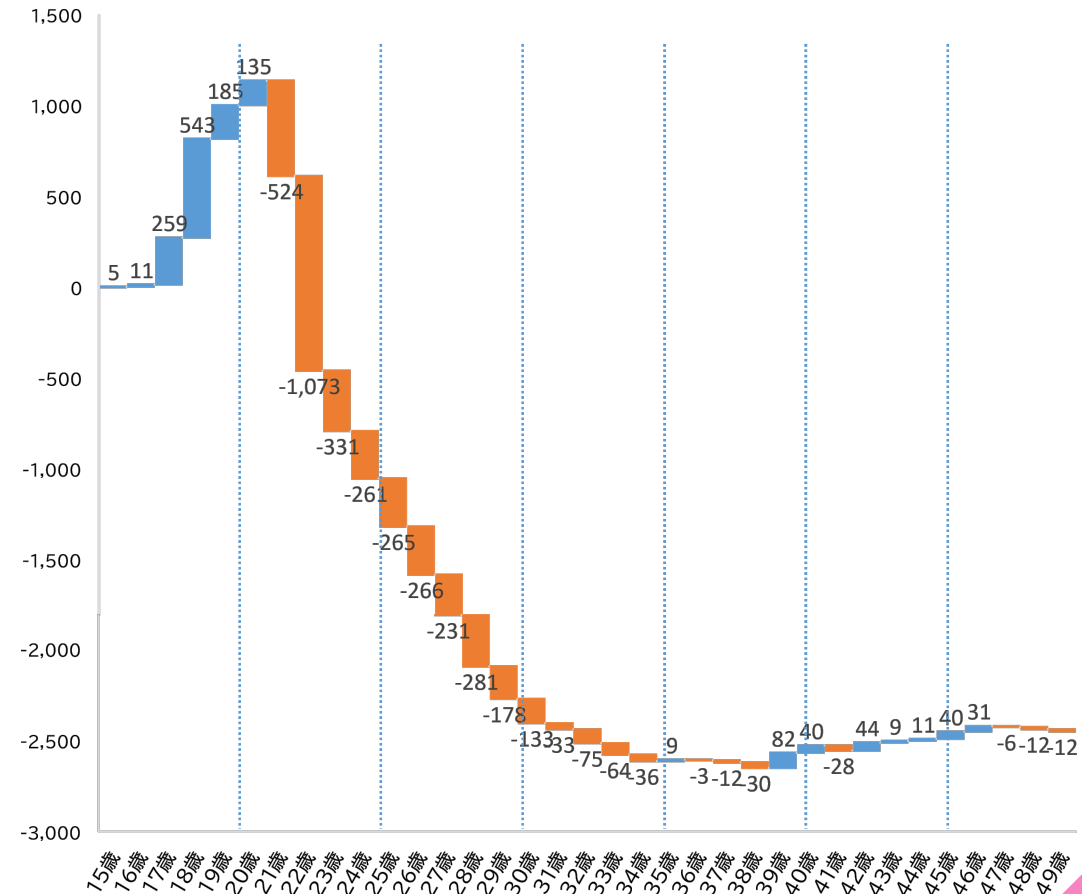
15歳～49歳男性人口(1歳刻み)の推移

- 直近5年間に於ける15歳～49歳の男性人口の推移は、21歳から30歳まで減少基調
- 特に22歳の減少幅(転出数)が多い(女性人口よりも減少幅が大きい)
- 31歳以降は増減を繰り返すが、結果的に増加傾向

2017年～2022年まで(直近5年間)の男性の人口動態



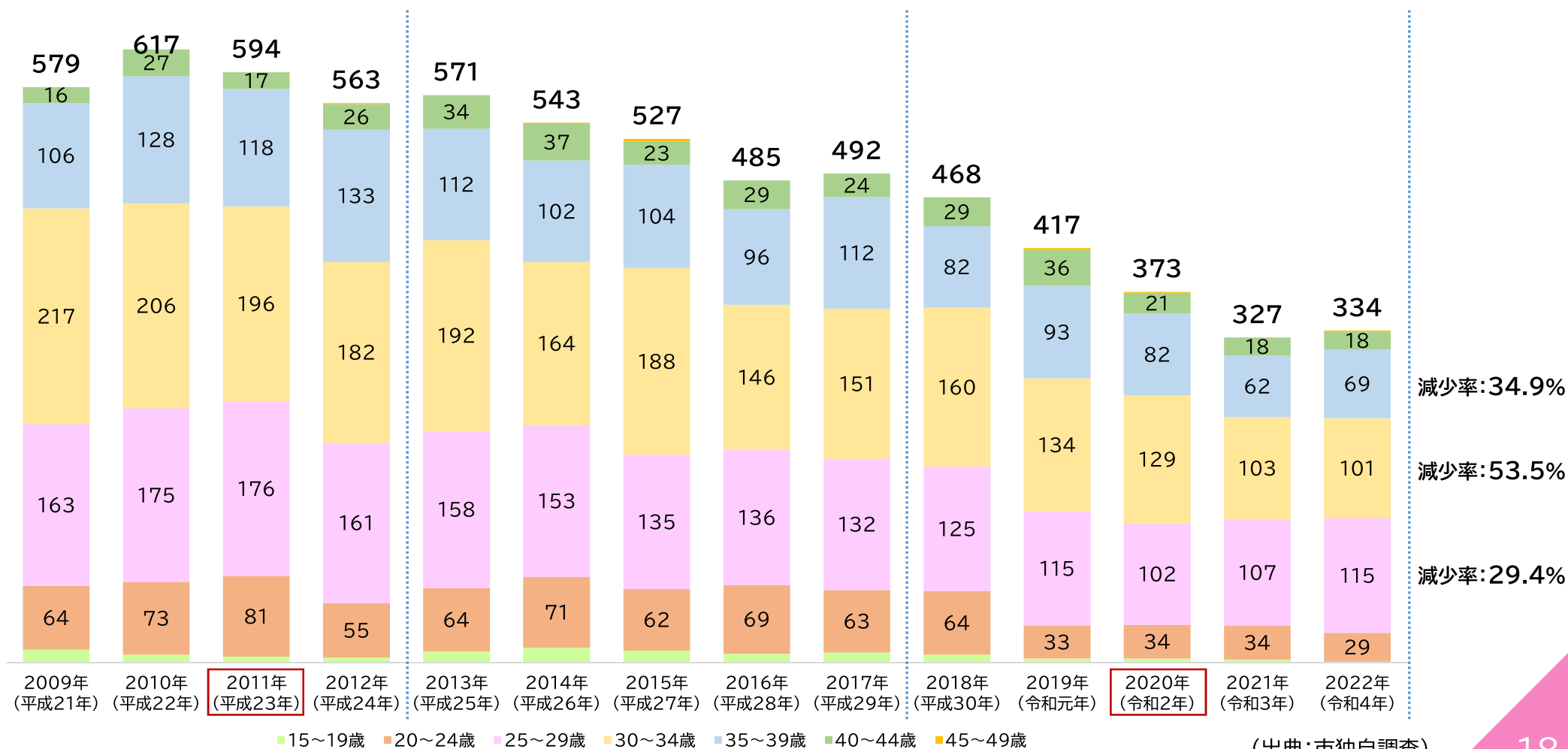
【参考】2009年～2022年まで(過去14年間)の男性の人口動態



年齢別女性人口に対する出生数の推移

- 合計特殊出生率を算出する際の「分子」となる出生数は減少傾向
- 特に、30～34歳及び25～29歳の女性人口に対する出生数は、大幅な減少傾向
- 20～24歳の女性人口に対する出生数は、約半数程度の減少

(出典:住民基本台帳人口)

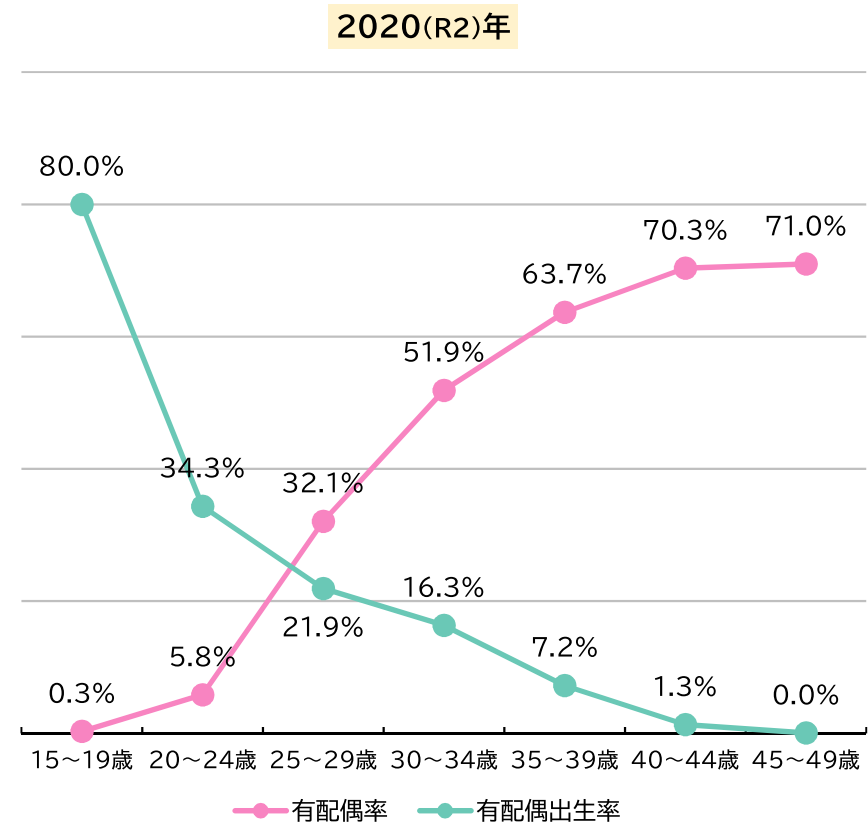
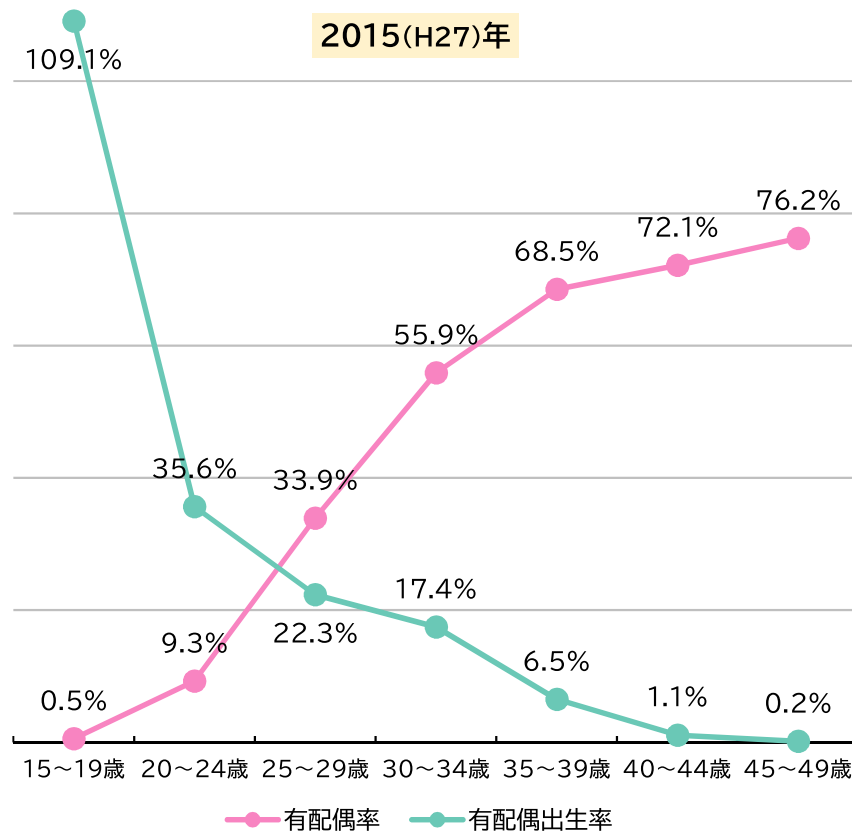


有配偶率×有配偶出生率

- 有配偶率は年齢が大きくなると増加し、有配偶出生率は年齢が大きくなると減少
- 2015(H27)年と2020(R2)年を比較すると、有配偶率は低く(未婚者が多い)、有配偶率も低い(こどもを産まない)

$$\text{有配偶率} = \frac{\text{配偶者がいる女性人口}}{\text{女性人口}}$$

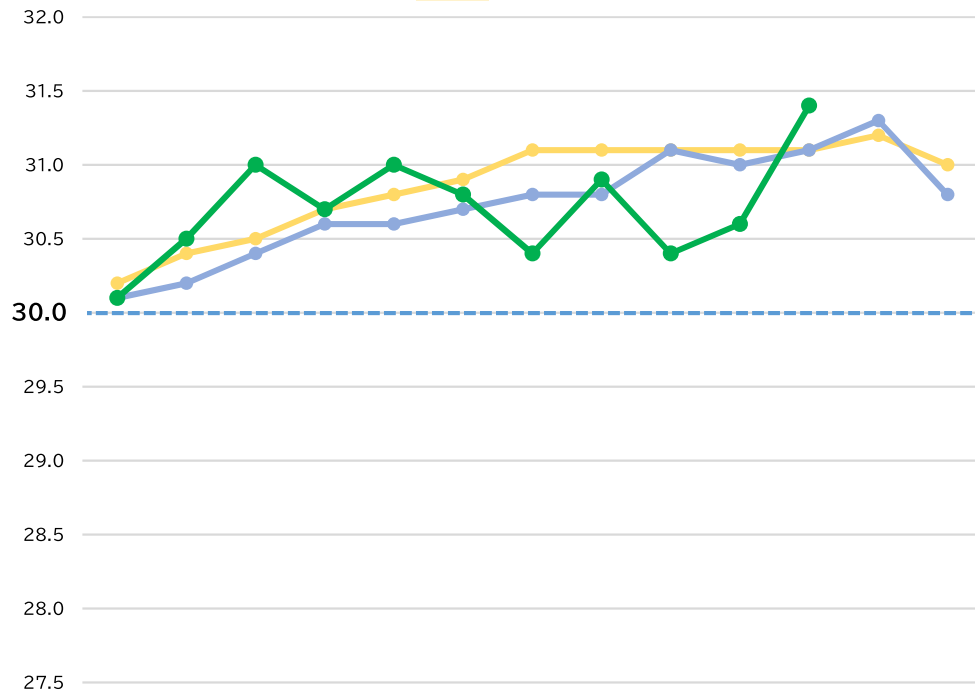
$$\text{有配偶出生率} = \frac{\text{出生した女性人口}}{\text{配偶者がいる女性人口}}$$



平均初婚年齢の推移

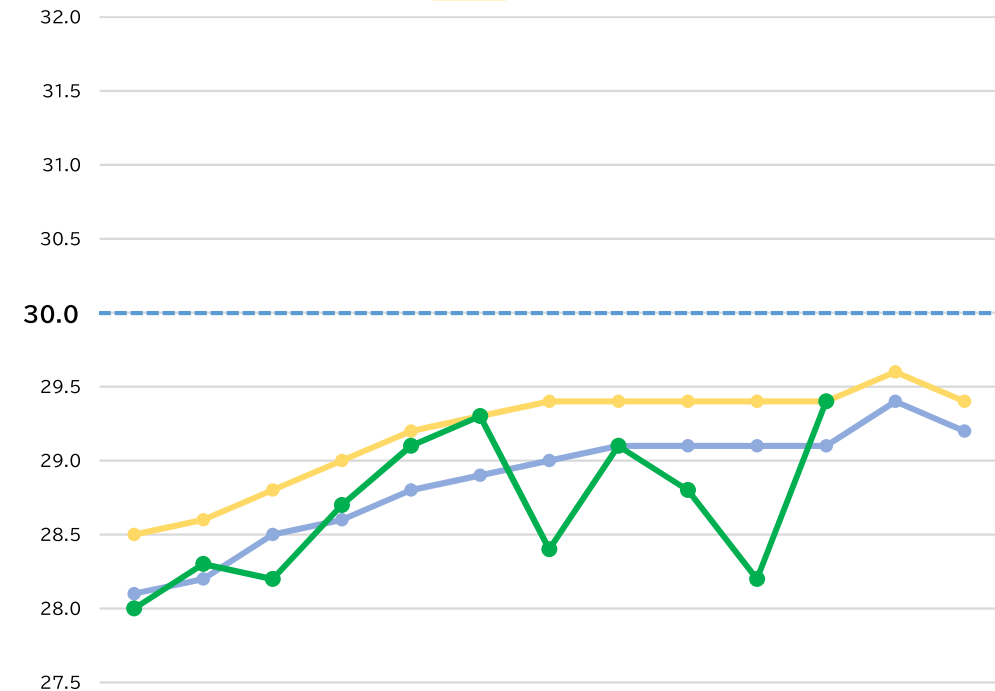
- 男性の平均初婚年齢は、30～31歳程度で推移しており、龍ヶ崎市は全国及び茨城県と比較すると同程度、または高い水準で推移している
- 女性の平均初婚年齢は、28～29歳程度で推移しており、龍ヶ崎市は全国及び茨城県と比較すると同程度、または低い水準で推移している

男性



	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
全国	30.2	30.4	30.5	30.7	30.8	30.9	31.1	31.1	31.1	31.1	31.1	31.2	31.0
茨城県	30.1	30.2	30.4	30.6	30.6	30.7	30.8	30.8	31.1	31.0	31.1	31.3	30.8
龍ヶ崎市	30.1	30.5	31.0	30.7	31.0	30.8	30.4	30.9	30.4	30.6	31.4		

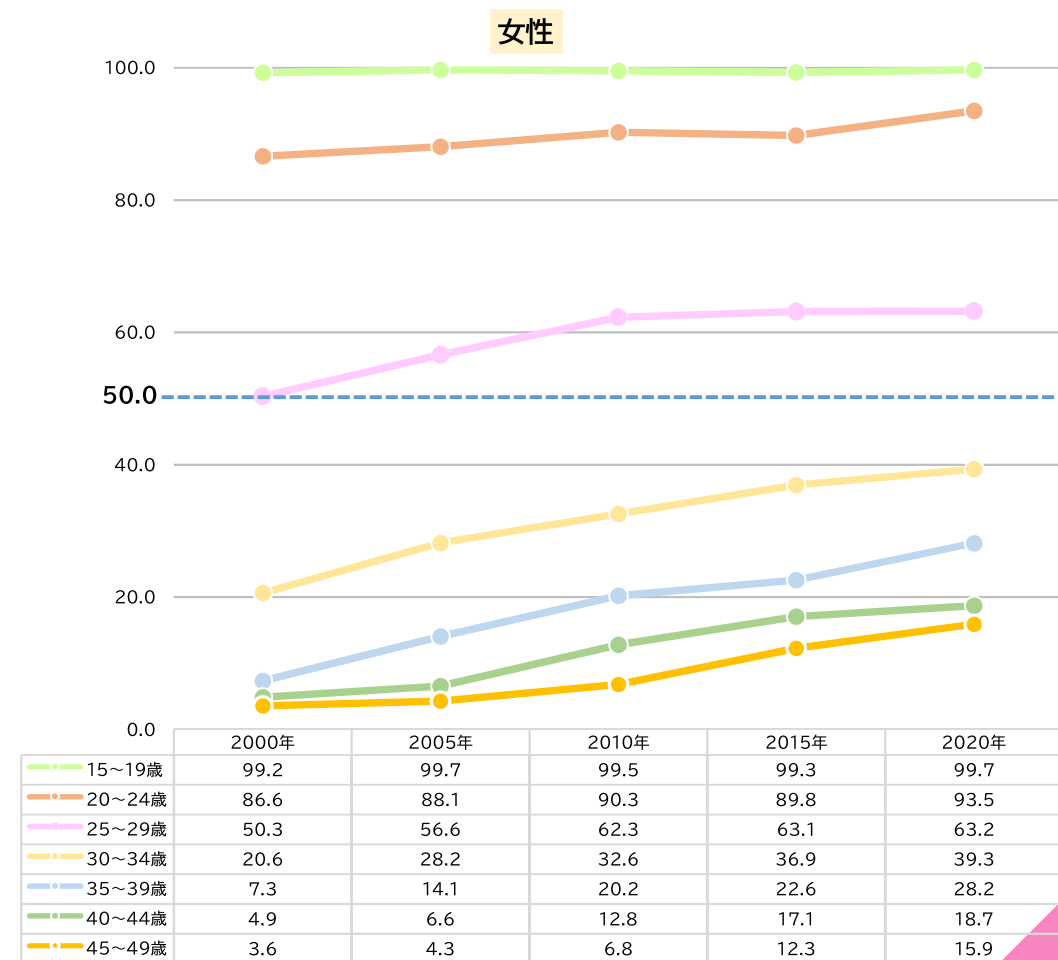
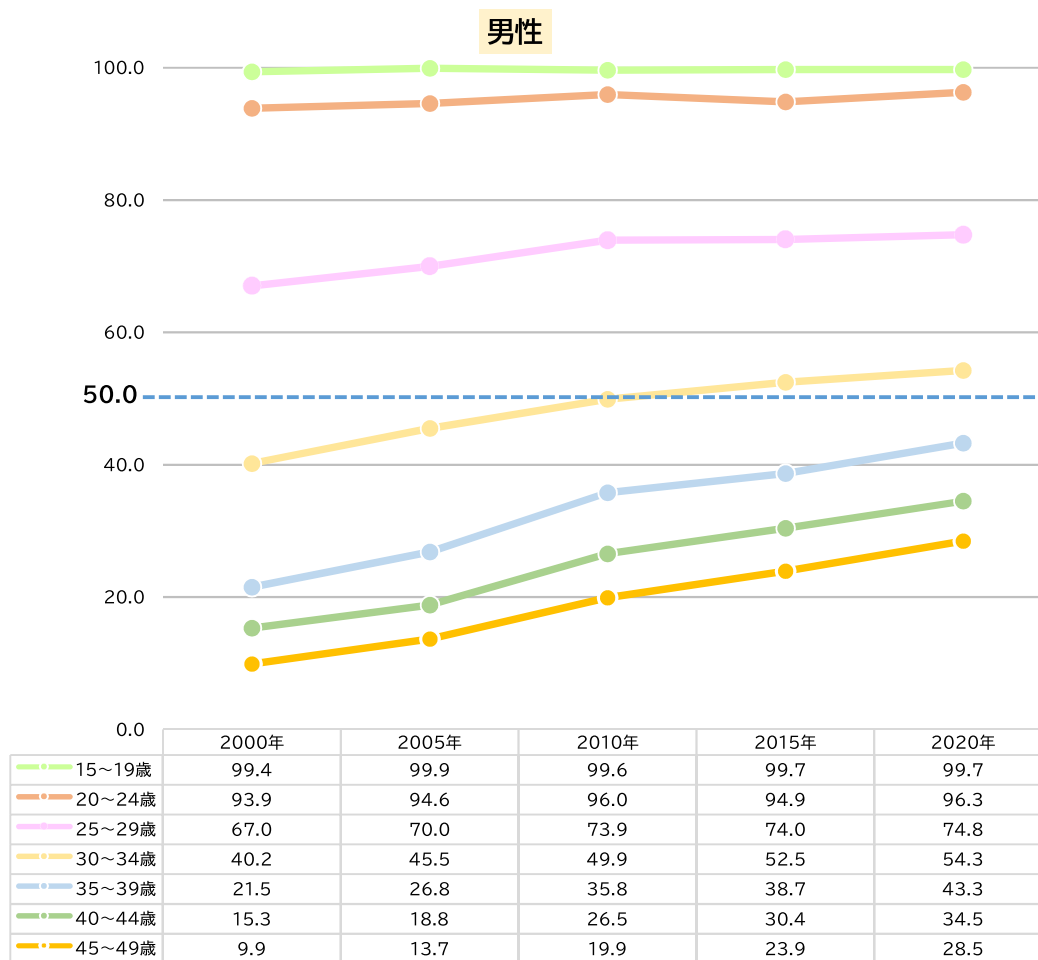
女性



	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
全国	28.5	28.6	28.8	29.0	29.2	29.3	29.4	29.4	29.4	29.4	29.4	29.6	29.4
茨城県	28.1	28.2	28.5	28.6	28.8	28.9	29.0	29.1	29.1	29.1	29.1	29.4	29.2
龍ヶ崎市	28.0	28.3	28.2	28.7	29.1	29.3	28.4	29.1	28.8	28.2	29.4		

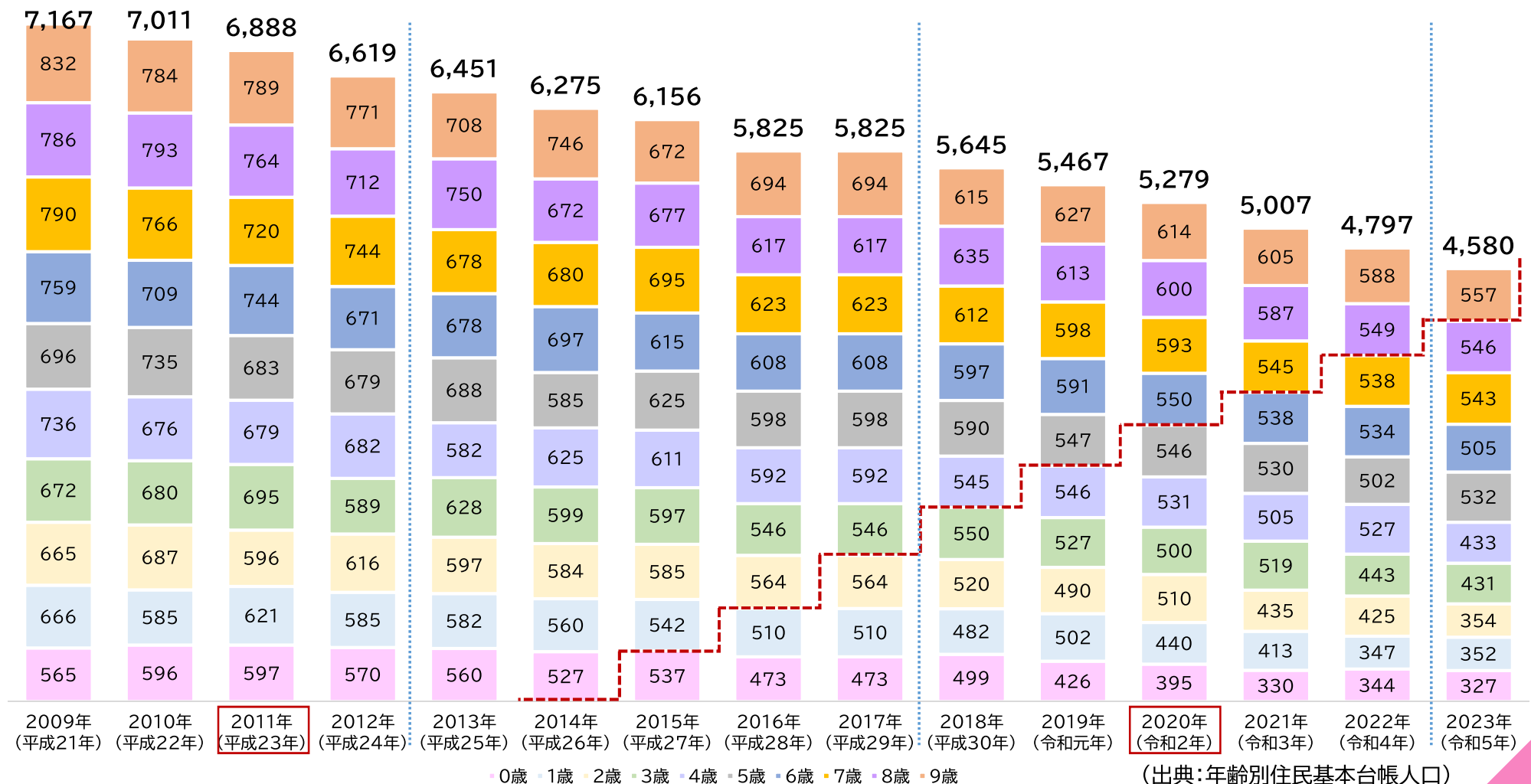
未婚率の推移

- 男性の未婚率は、30～49歳の上昇が顕著であり、晩婚化が進んでいると考えられる
- 女性の未婚率は、25～49歳の上昇が顕著であり、男性と同様に晩婚化が進んでいると考えられるが、特に30歳代の未婚率の上昇幅が大きい



0歳～9歳のこどもの人数(1歳刻み)の推移

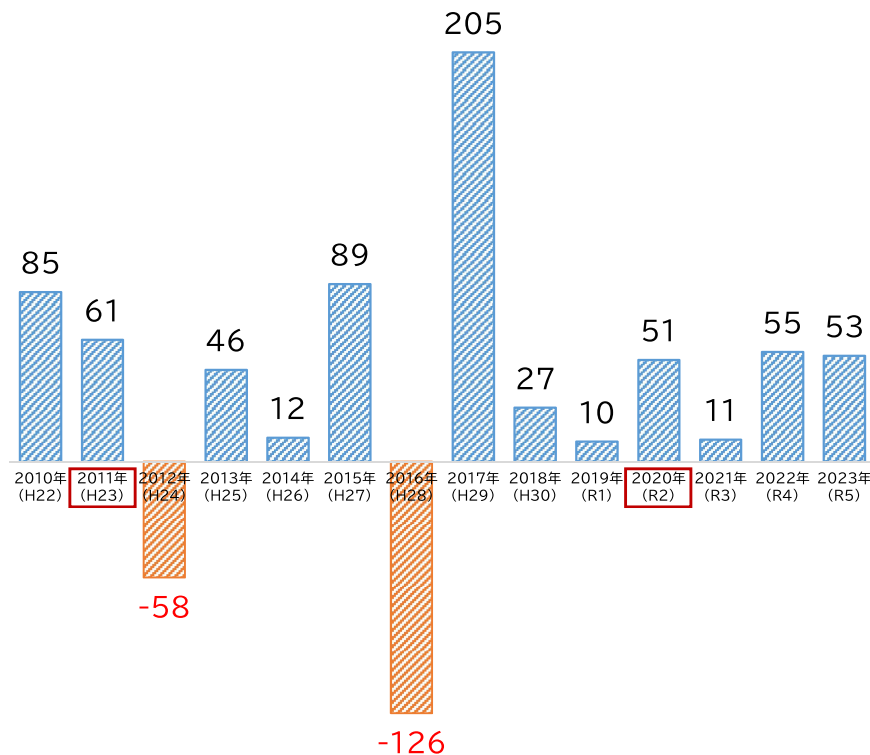
- 0～9歳のこどもの総人数は減少傾向
- 0歳のこどもの人数(出生数)も減少傾向(15～49歳の女性人口も減少)
- 1年後(例:0歳→1歳)のこどもの人数は増加傾向(子育て世代の転入超過)



0歳～9歳のこども(0歳～6歳)の1年後の状況

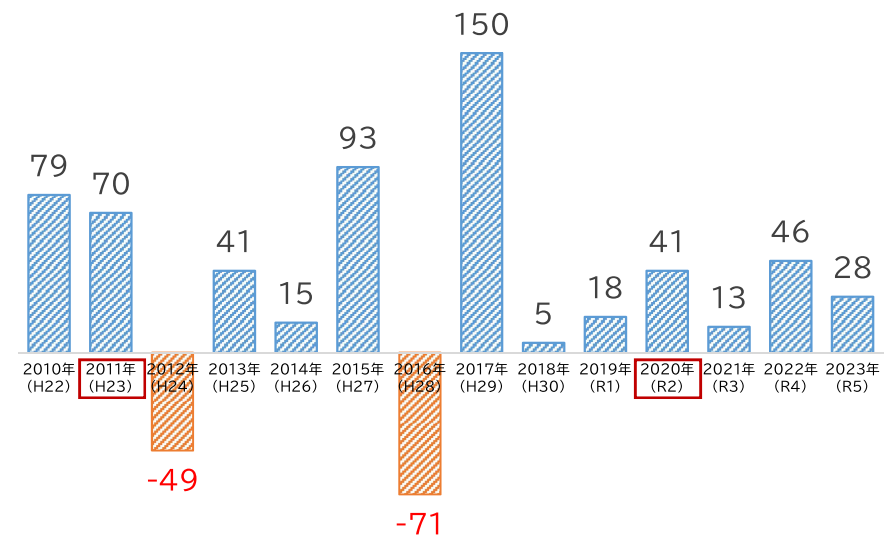
- 0～9歳児が、一年後、1～10歳になった時の人数を比較すると、ほぼすべての年代で増加(2012(H24)年、2016(H28)年は減少)
- 0～6歳児(小学校入学前まで)でも、2011(H23)年、2016(H28)年以外は増加

0歳～9歳児の状況(0歳～9歳→1歳～10歳)



【参考】 0歳～6歳児の状況(0歳～6歳→1歳～7歳)

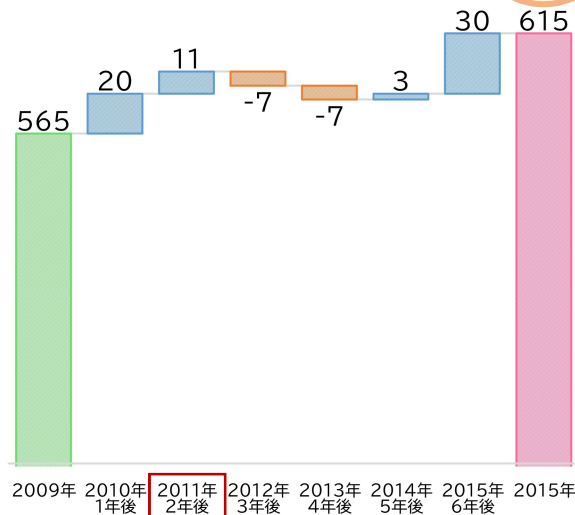
(小学校入学まで)



各年齢の6年後(小学校入学まで)の人口動向

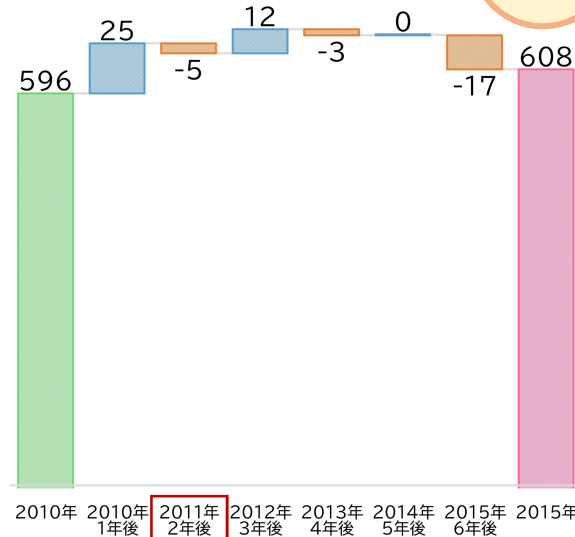
2009年(H21)生まれの社会動向

50人
増加



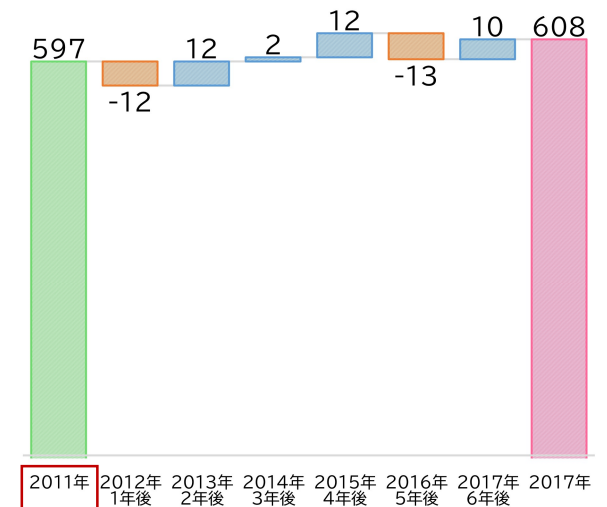
2010年(H22)生まれの社会動向

12人
増加



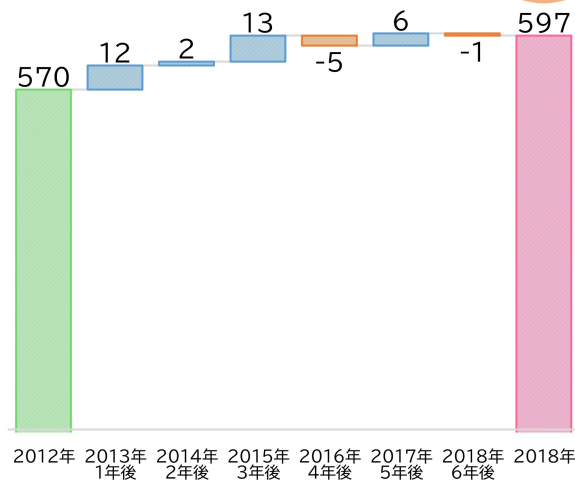
2011年(H23)生まれの社会動向

11人
増加



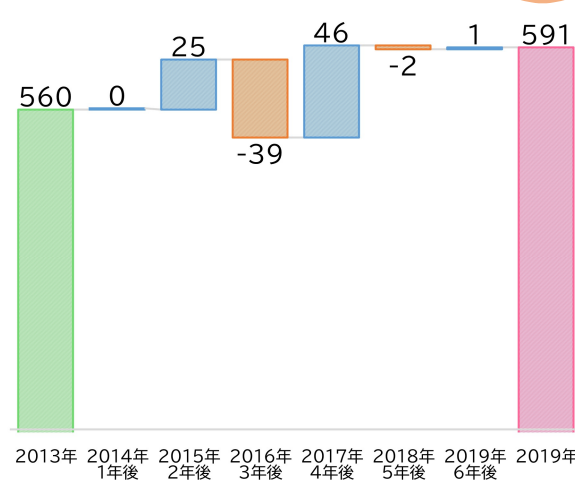
2012年(H24)生まれの社会動向

27人
増加



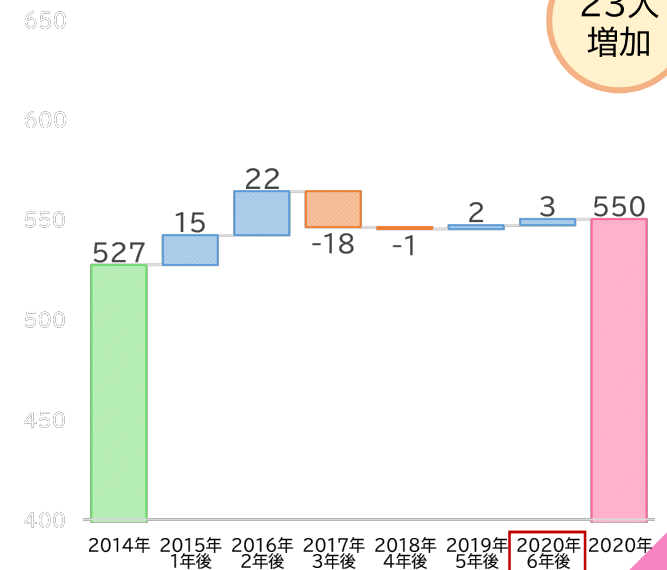
2013年(H25)生まれの社会動向

31人
増加



2014年(H26)生まれの社会動向

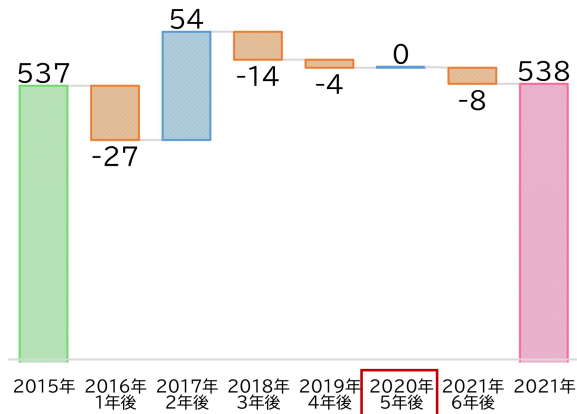
23人
増加



(出典:年齢別住民基本台帳人口)

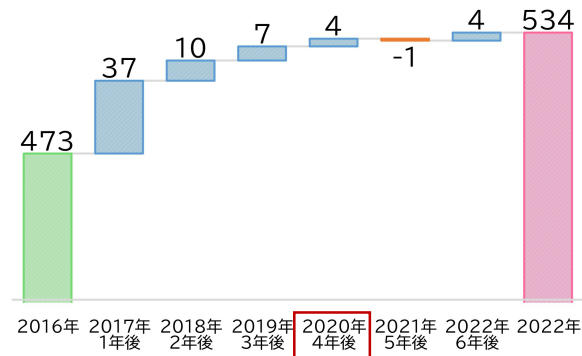
2015年(H27)生まれの社会動向

1人
増加



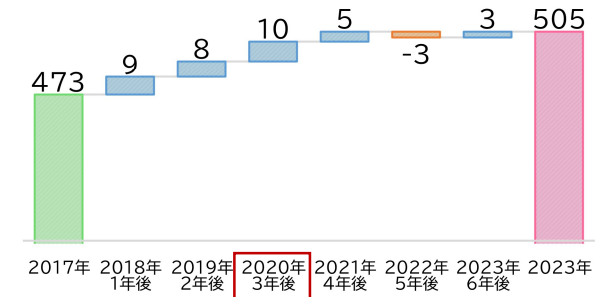
2016年(H28)生まれの社会動向

61人
増加



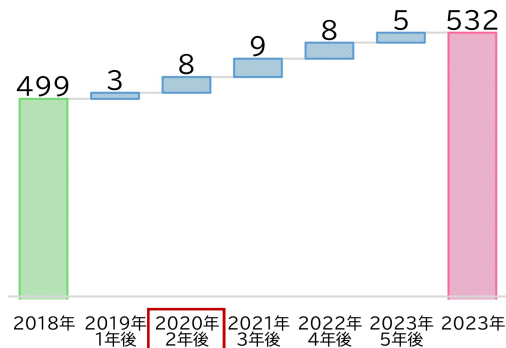
2017年(H29)生まれの社会動向

32人
増加



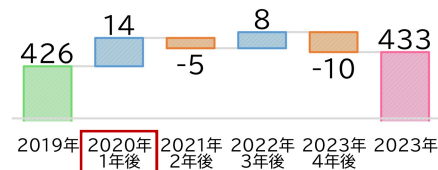
2018年(H30)生まれの社会動向

33人
増加



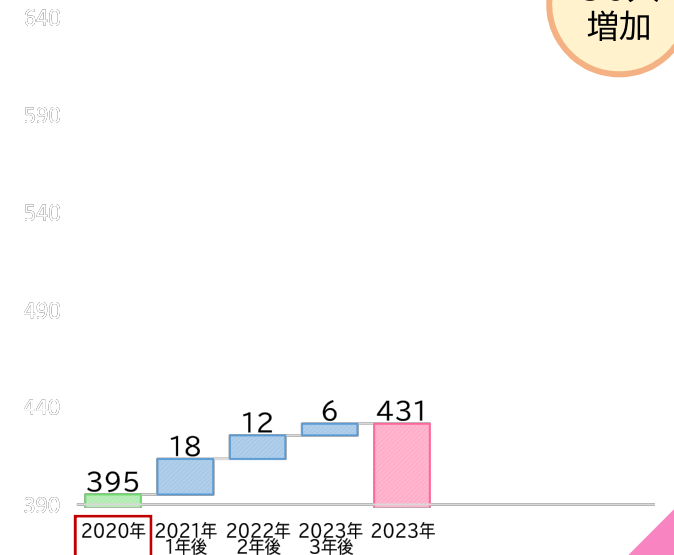
2019年(R1)生まれの社会動向

7人
増加



2020年(R2)生まれの社会動向

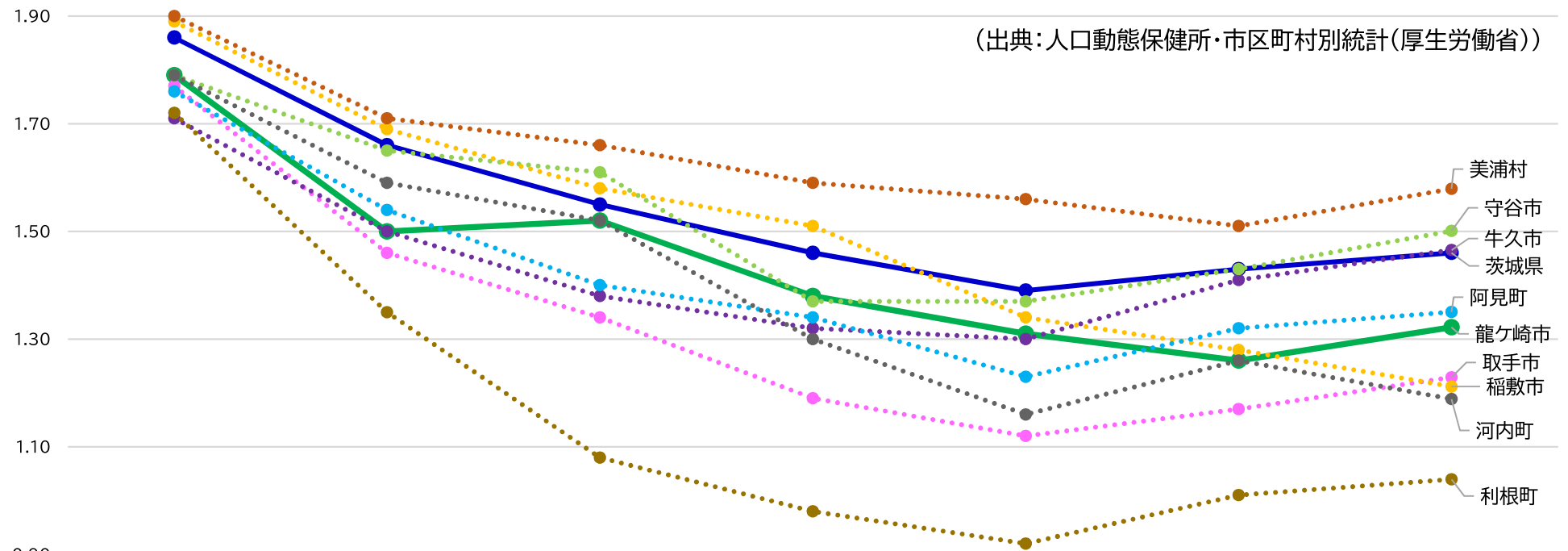
36人
増加



(出典:年齢別住民基本台帳人口)

近隣市町村の合計特殊出生率の比較

- ・ 近隣市町村と比較するため、人口動態保健所・市町村別統計(厚生労働省)を参照
- ・ 龍ヶ崎市の合計特殊出生率は、茨城県平均を下回る
- ・ 近隣市町村で、合計特殊出生率が最も高いのは美浦村、最も低いのは利根町



	1983年～1987年 (昭和58年～62年)	1988年～1992年 (昭和63年～平成4年)	1993年～1997年 (平成5年～9年)	1998年～2002年 (平成10年～14年)	2003年～2007年 (平成15年～19年)	2008年～2012年 (平成20年～24年)	2013年～2017年 (平成25年～29年)
茨城県	1.86	1.66	1.55	1.46	1.39	1.43	1.46
龍ヶ崎市	1.79	1.50	1.52	1.38	1.31	1.26	1.32
取手市	1.77	1.46	1.34	1.19	1.12	1.17	1.23
牛久市	1.71	1.50	1.38	1.32	1.30	1.41	1.47
守谷市	1.79	1.65	1.61	1.37	1.37	1.43	1.50
稲敷市	1.89	1.69	1.58	1.51	1.34	1.28	1.21
美浦村	1.90	1.71	1.66	1.59	1.56	1.51	1.58
阿見町	1.76	1.54	1.40	1.34	1.23	1.32	1.35
河内町	1.79	1.59	1.52	1.30	1.16	1.26	1.19
利根町	1.72	1.35	1.08	0.98	0.92	1.01	1.04

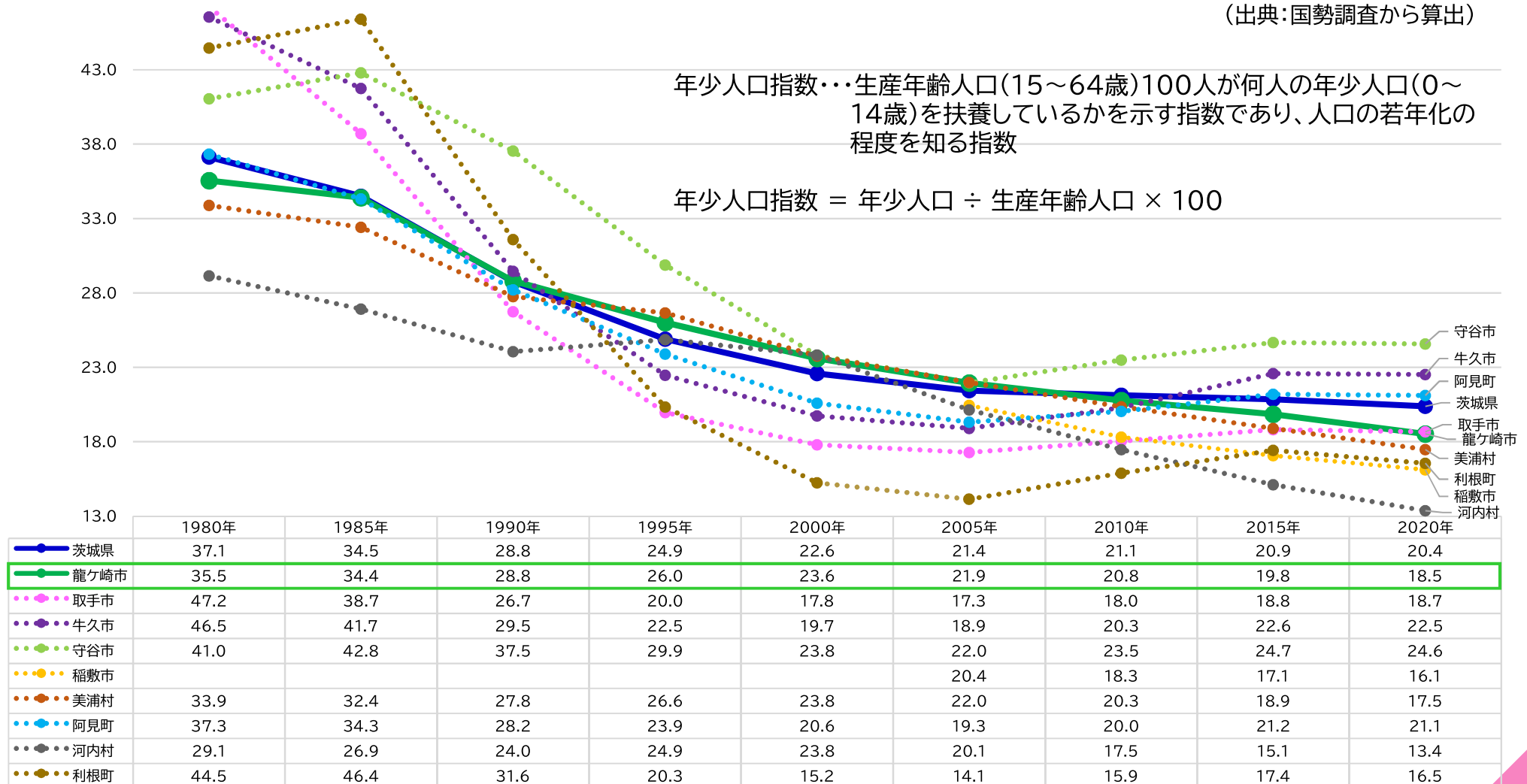
近隣市町村の年少人口指数の推移

- 龍ヶ崎市の年少人口指数は、1990年から2005年までは、茨城県平均を上回っていたが、2010年以降は茨城県平均を下回る
- 近隣市町村で最も合計特殊出生率が高い美浦村と、最も低い利根町の年少人口指数は、ほぼ同等

(出典:国勢調査から算出)

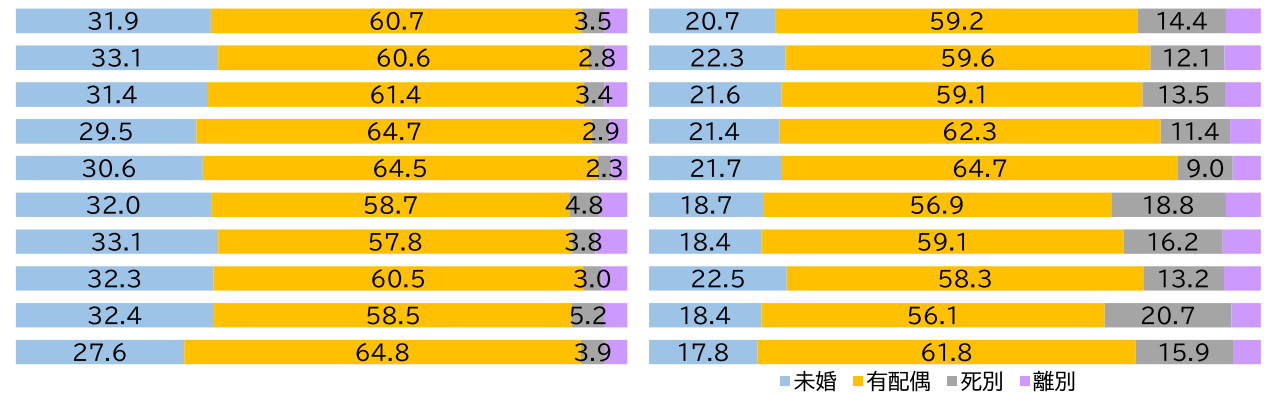
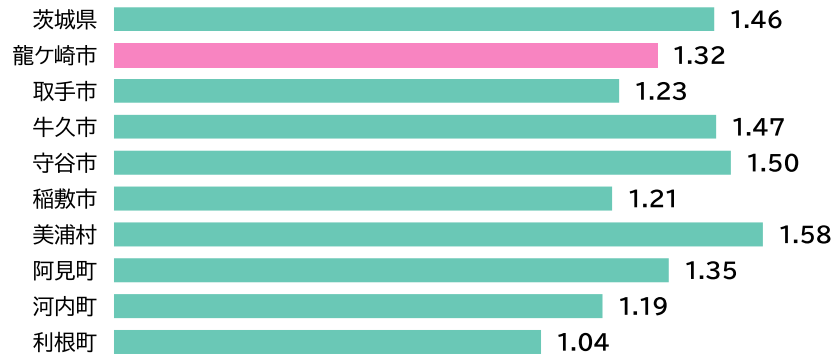
年少人口指数…生産年齢人口(15～64歳)100人が何人の年少人口(0～14歳)を扶養しているかを示す指数であり、人口の若年化の程度を知る指数

$$\text{年少人口指数} = \text{年少人口} \div \text{生産年齢人口} \times 100$$



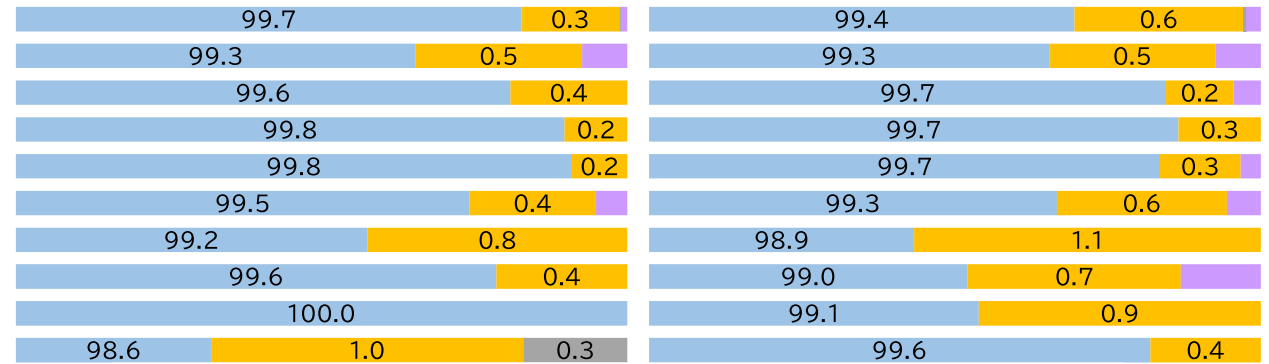
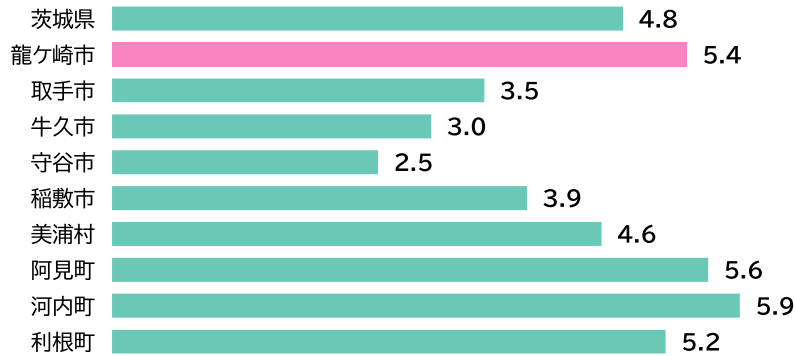
合計特殊出生率(2013年～2017年)×配偶関係(2015年)

合計特殊出生率

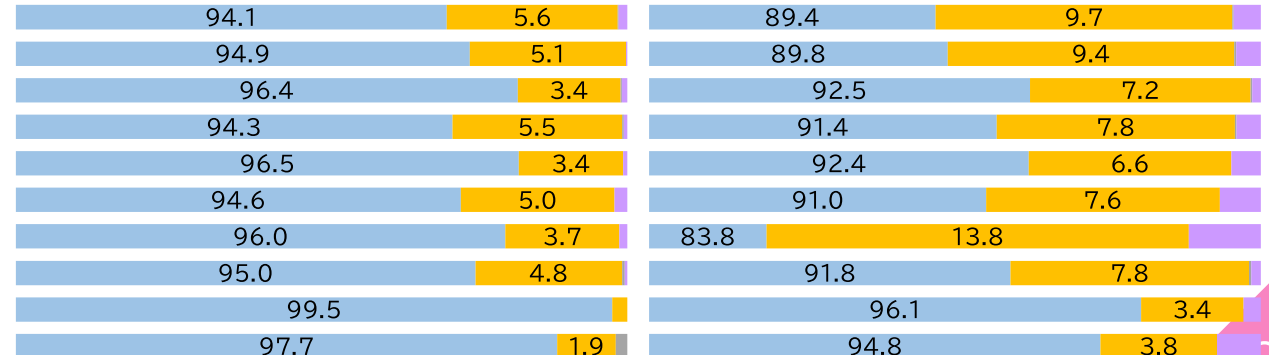
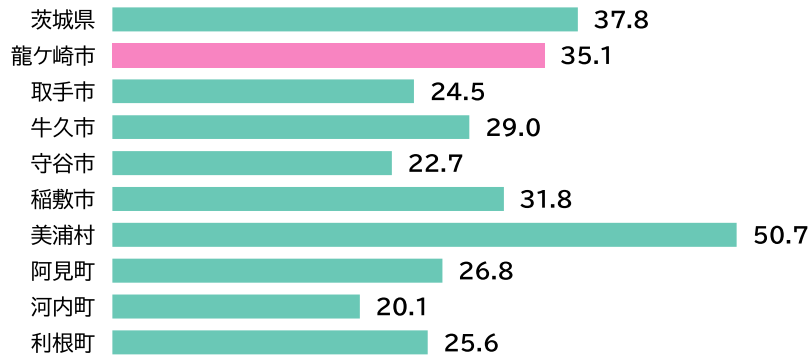


15～19歳

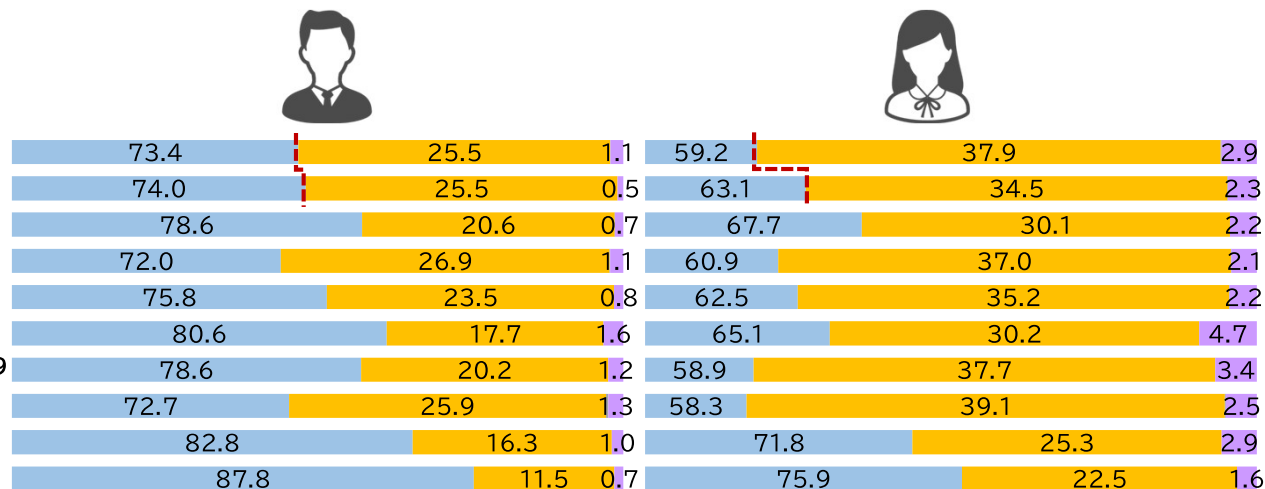
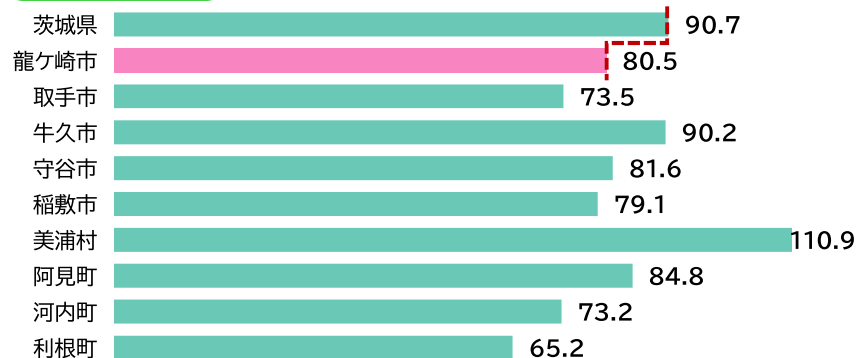
年齢階級別出生率(女性人口1,000人に対する年間出生数の割合)



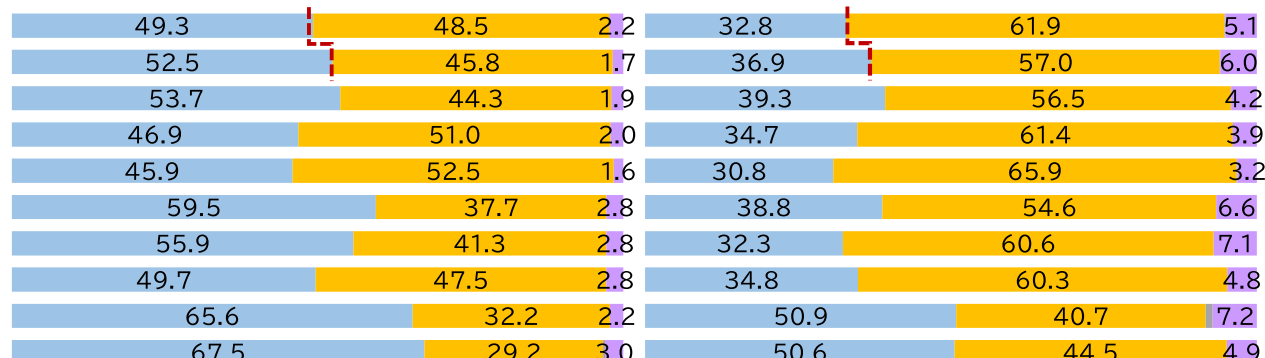
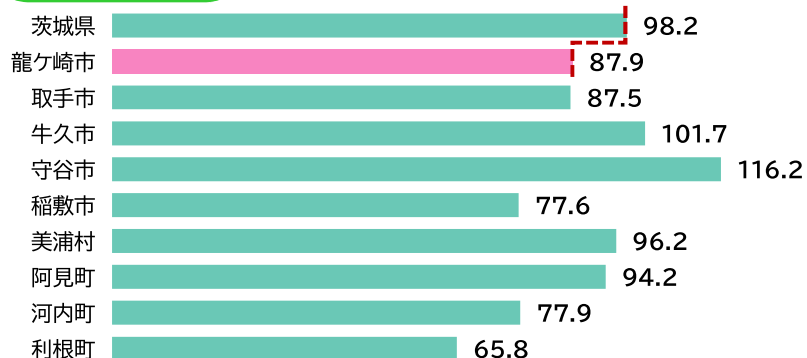
20～24歳



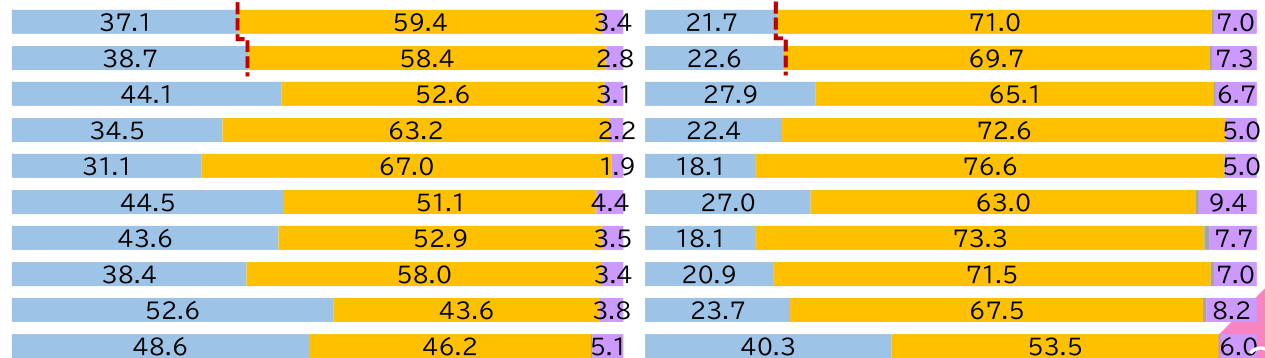
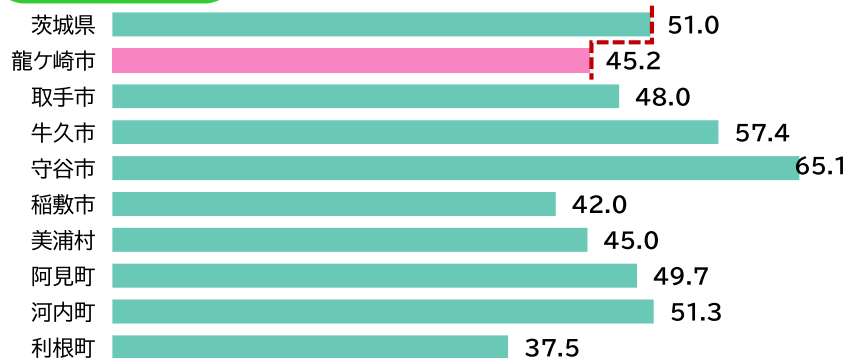
25～29歳



30～34歳



35～39歳

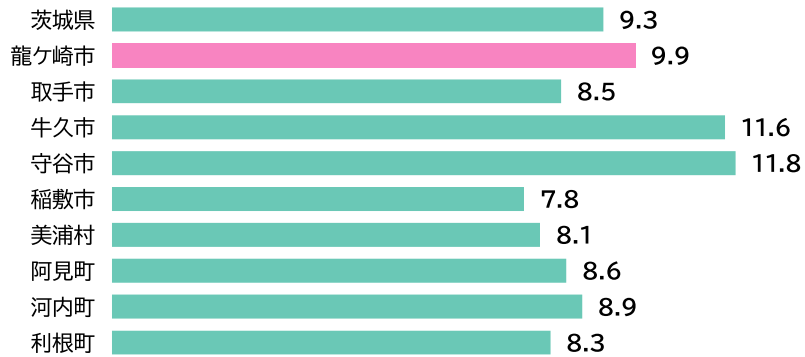


(出典:人口動態保健所・市区町村別統計(厚生労働省))

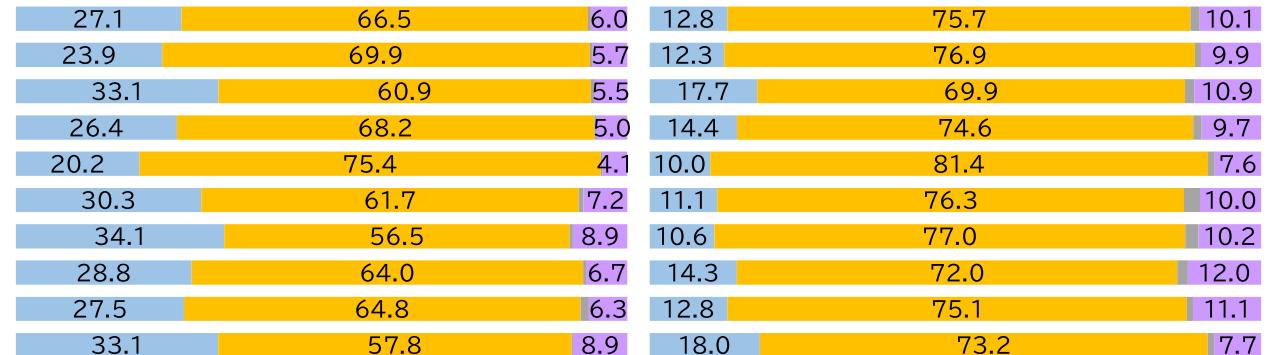
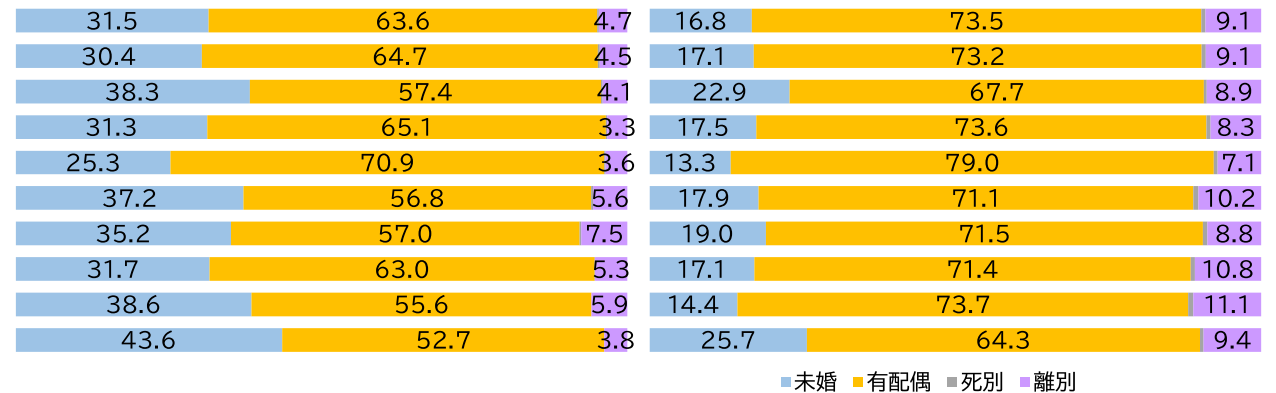
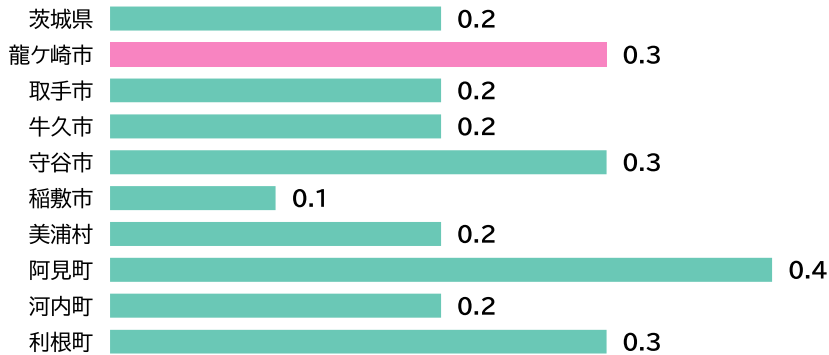
(出典:国勢調査「配偶関係」)

合計特殊出生率(2013年～2017年)×配偶関係(2015年)

40～44歳



45～49歳

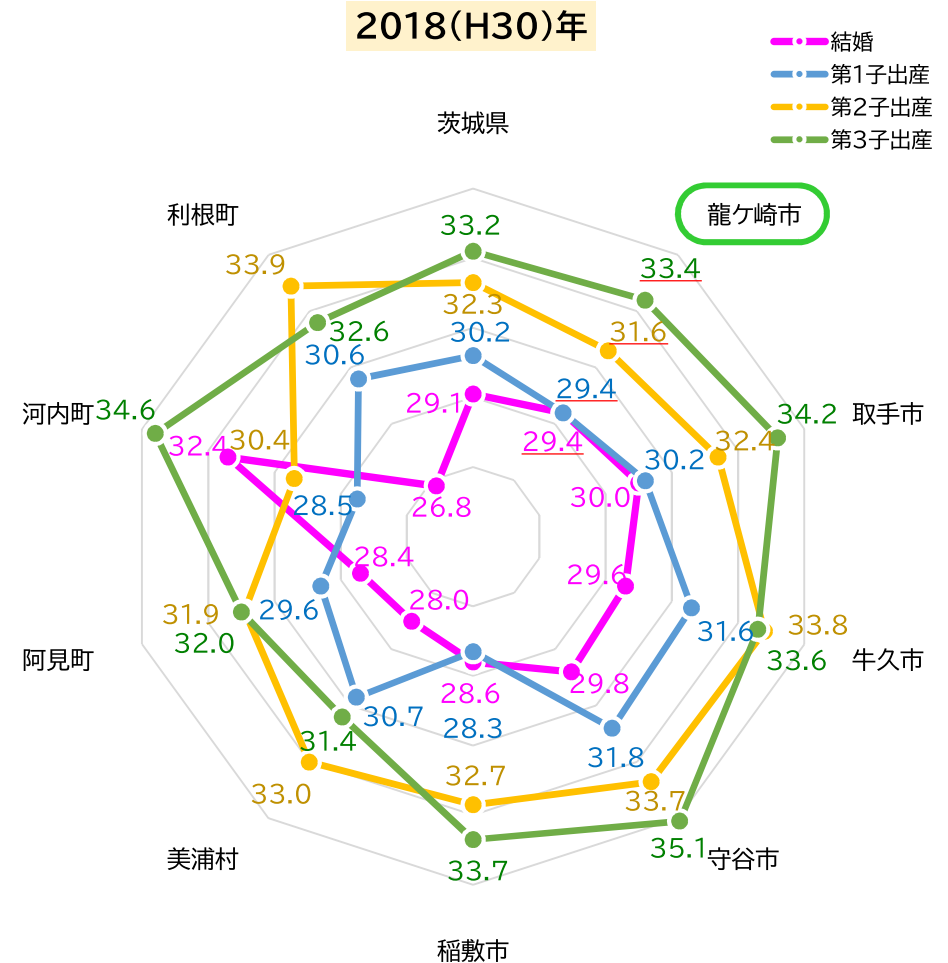
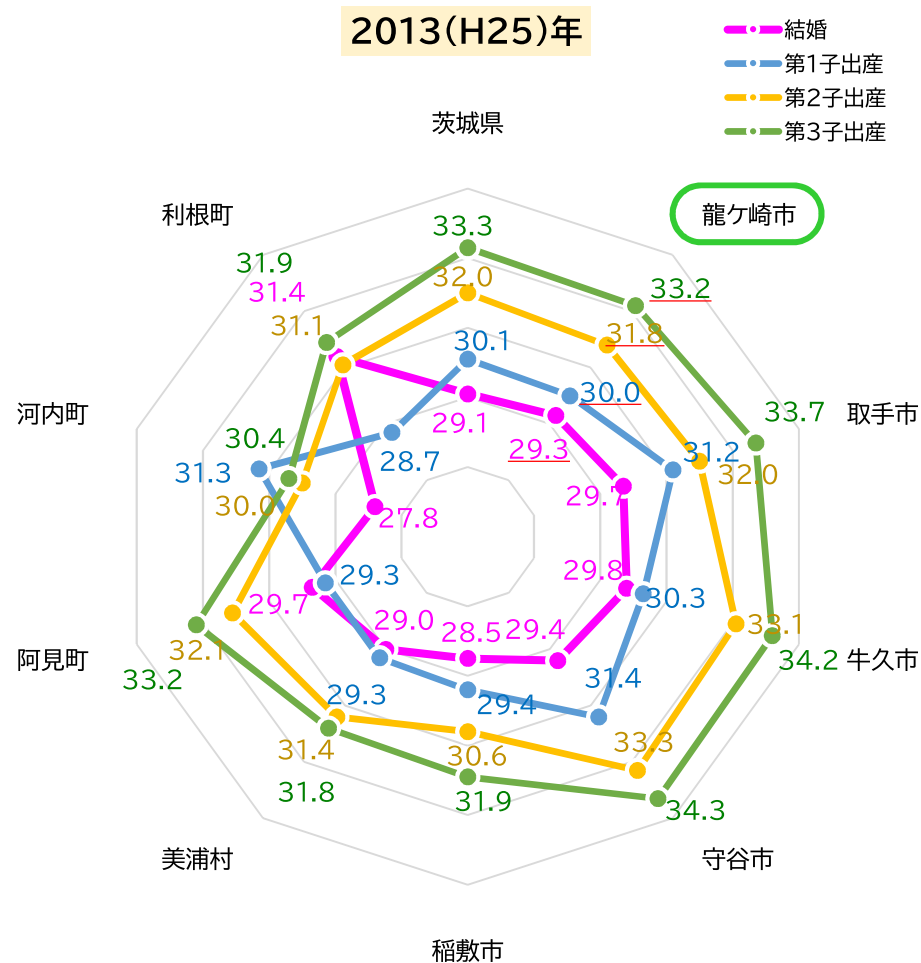


- 龍ヶ崎市と茨城県平均の年齢階級別出生率を比較すると、龍ヶ崎市は、25～29歳、30～34歳及び35～39歳が低い
- 龍ヶ崎市(男性・女性)と茨城県平均の未婚率を比較すると、25～29歳、30～34歳及び35～39歳が高い

結婚平均年齢、第1子～3子出産平均年齢

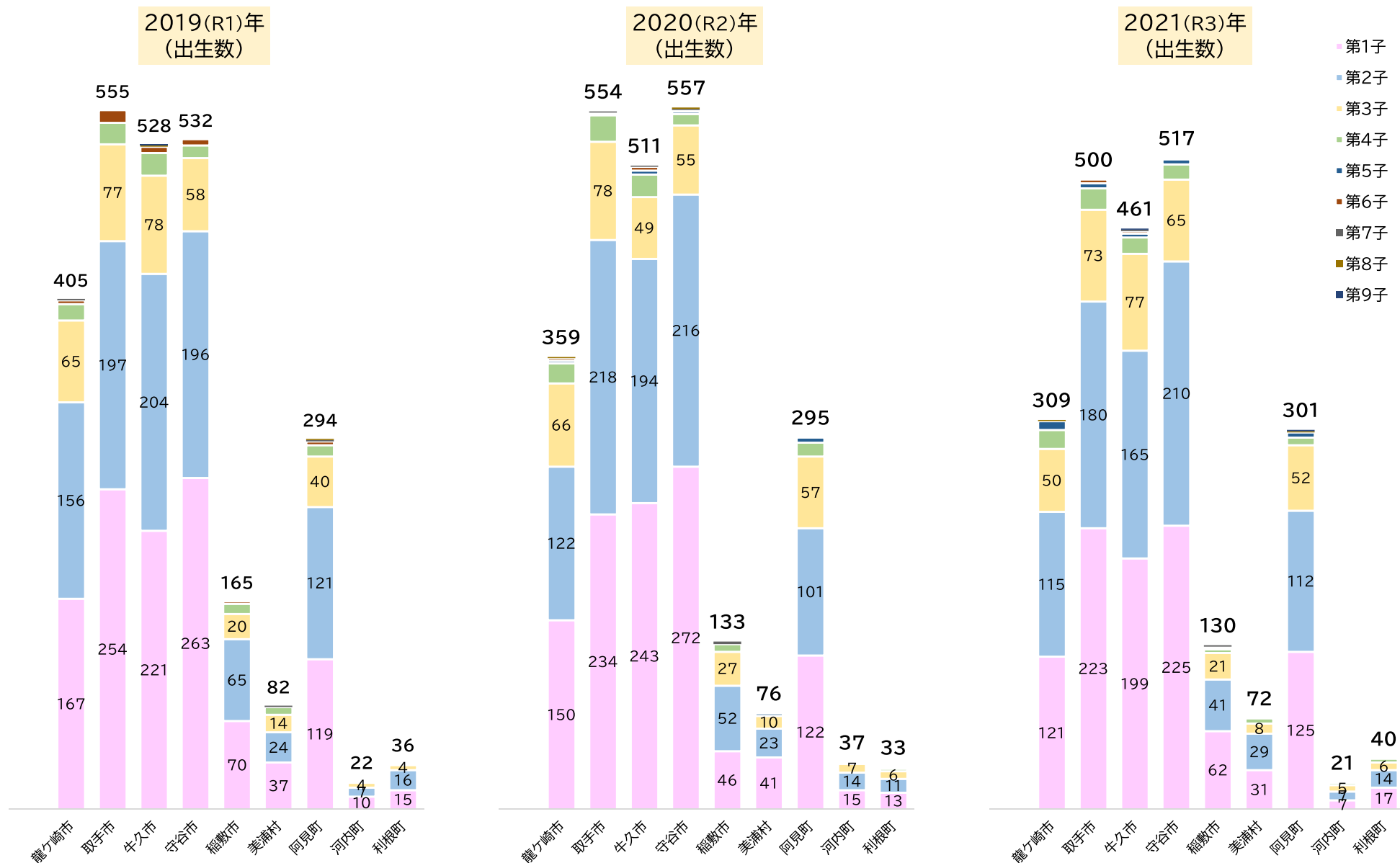
- 龍ヶ崎市は、茨城県平均とほぼ同様(2013(H25)年、2018(H30)年とも)
- 2018(H30)年は「結婚平均年齢」と「第1子の出産平均年齢」が同等
- 第1子、第2子、第3子の出産平均年齢は、2歳刻み

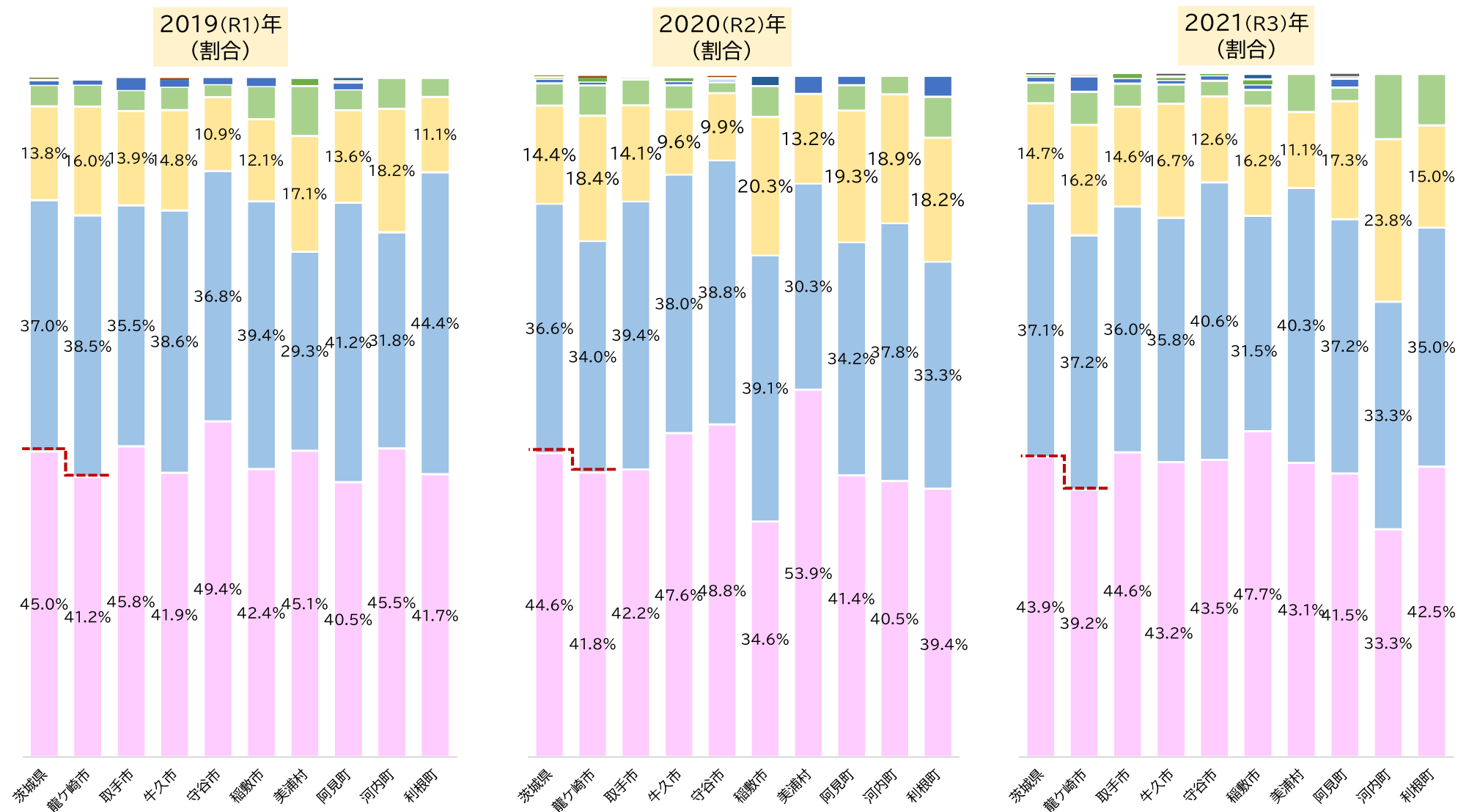
(出典:RESAS)



2019(R1)年～2021(R3)年の出生数・割合の推移

(出典:茨城県人口動態統計(茨城県))

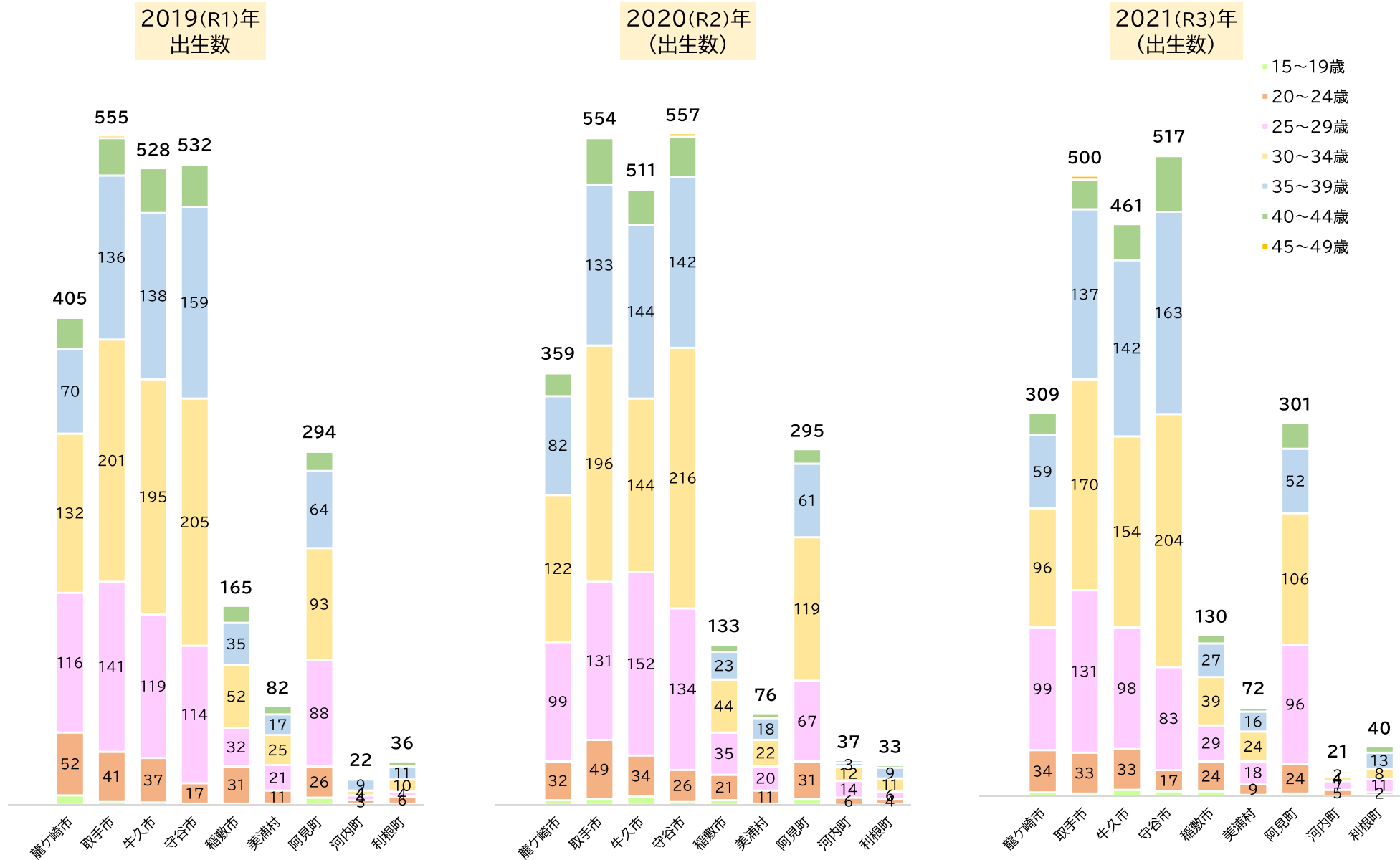


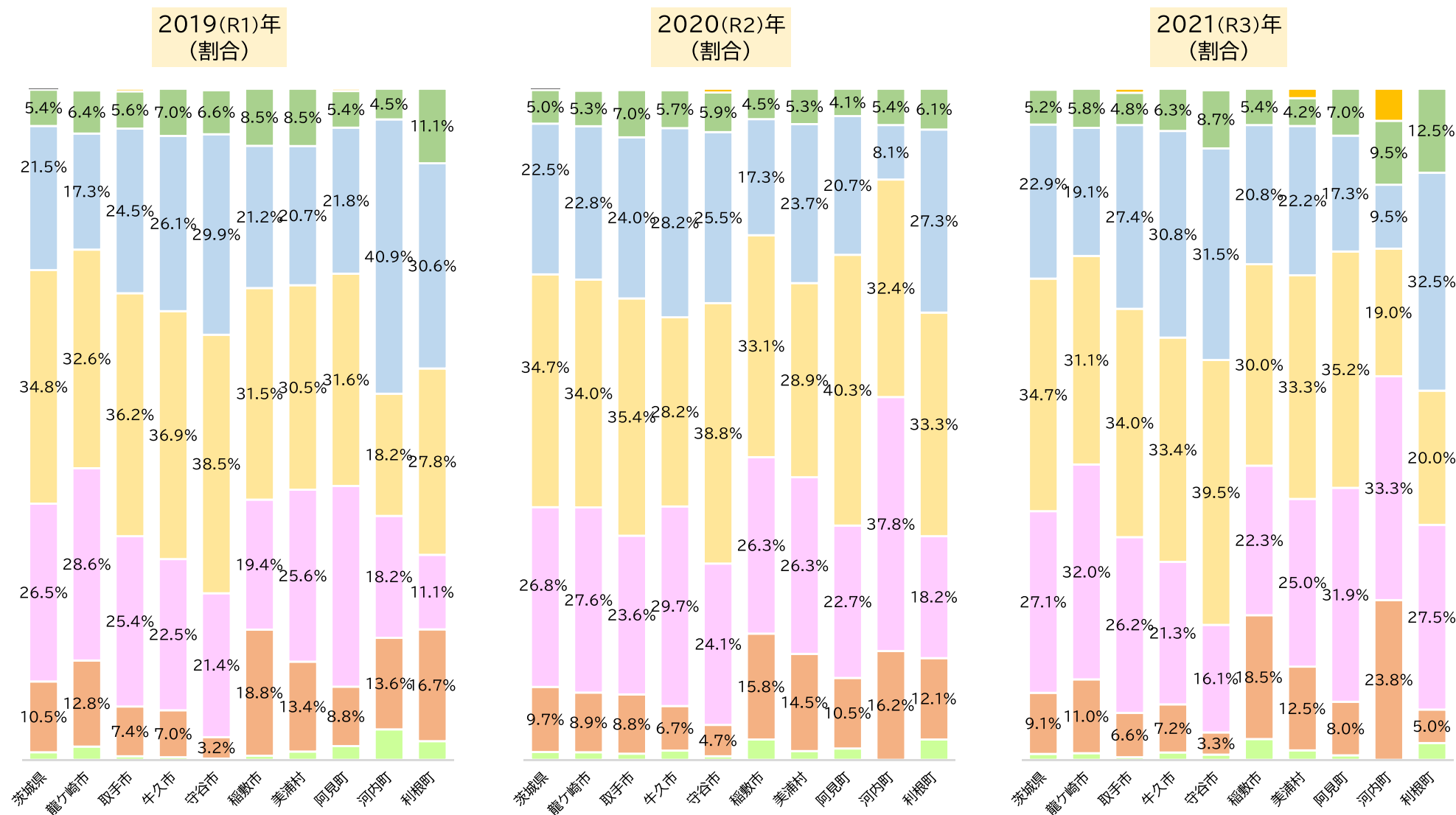


- ・ 龍ヶ崎市と茨城県平均の「第1子」の出産割合を比較すると、龍ヶ崎市の割合は低い
- ・ 「第2子」の割合はほぼ同等で、「第3子」の割合は高い

2019(R1)年～2021(R3)年の母親の年齢別の出生数

(出典:茨城県人口動態統計(茨城県))



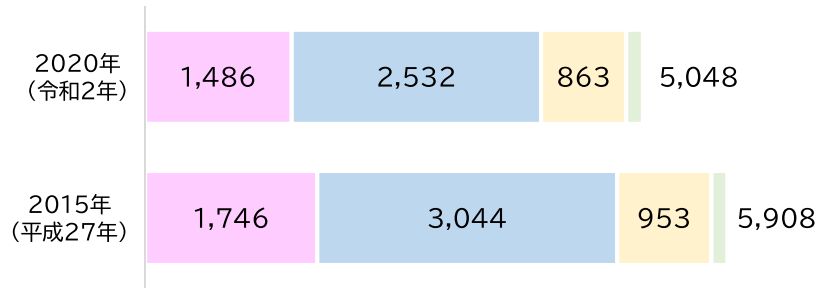


- 年齢別出生数は、年齢別女性人口の出生数(P17)と類似
- 龍ヶ崎市の年齢別出産数は、24～29歳、30～34歳が、ほぼ同等
- 35～39歳の年齢別出産割合は、茨城県平均よりも低い

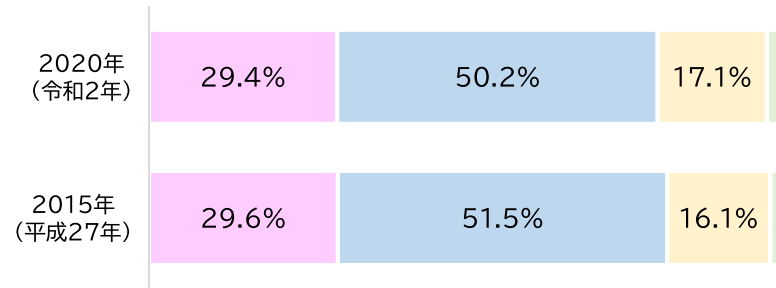
家庭におけるこどもの人数

(出典:国勢調査)

0～17歳の人数



0～17歳の割合

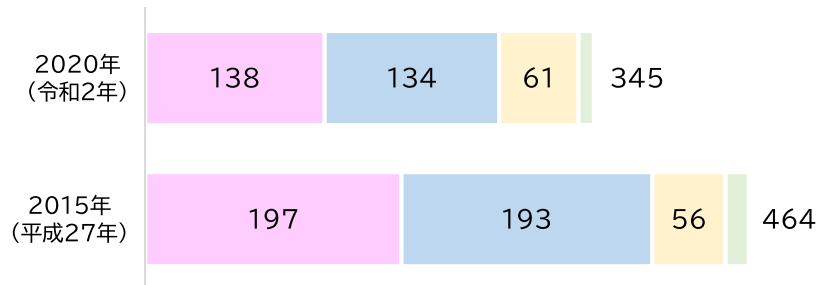


- 「第2子」が占める割合が最も多い
- 次いで、「第1子」「第3子」「第4子以降」

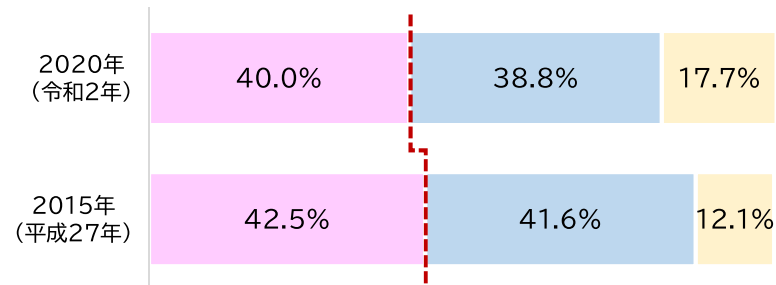
子供が1人 子供が2人 子供が3人 子供が4人以上

子供が1人 子供が2人 子供が3人 子供が4人以上

0歳の人数

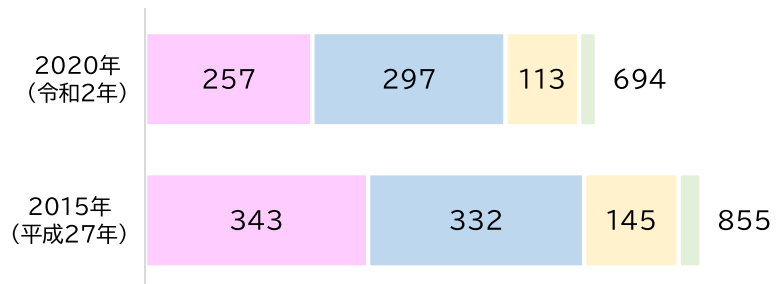


0歳の割合

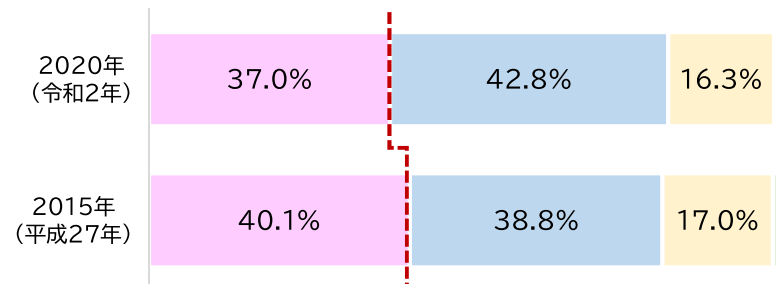


- 前回(2020年)と比較すると、「0歳」、「1～2歳」では、第2子以降の占める割合が多い

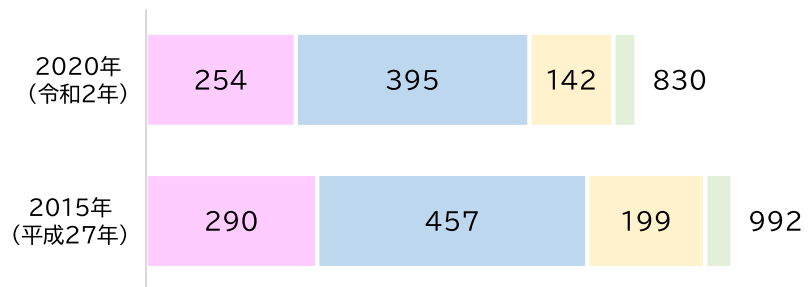
1～2歳の人数



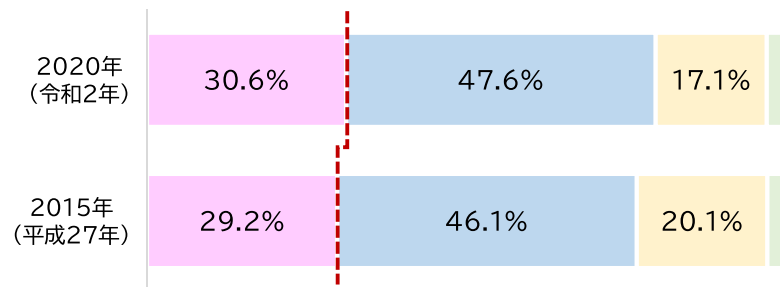
1～2歳の割合



3～5歳

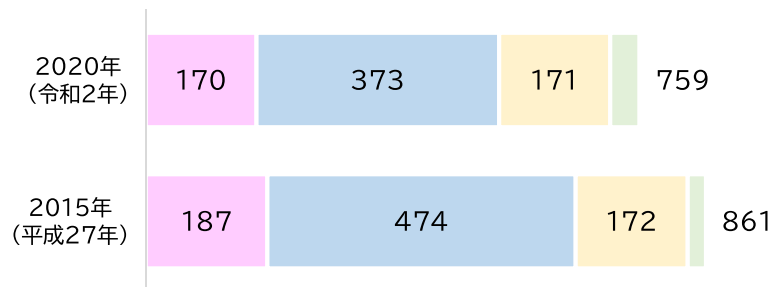


3～5歳

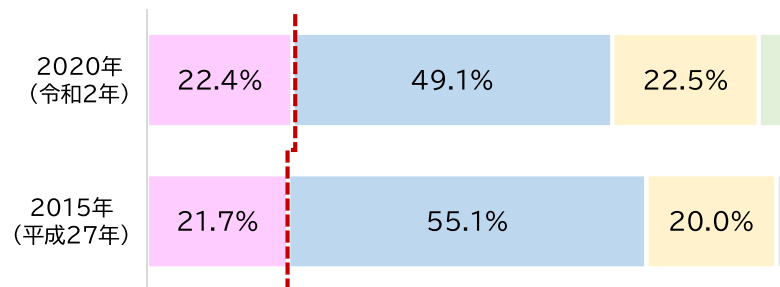


- 前回(2020年)と比較すると、「3歳以上」になると第1子の割合が増加
- 6歳以降(小学校入学)では、第1子のみ
の割合が増加(第2子の出生は難しい)

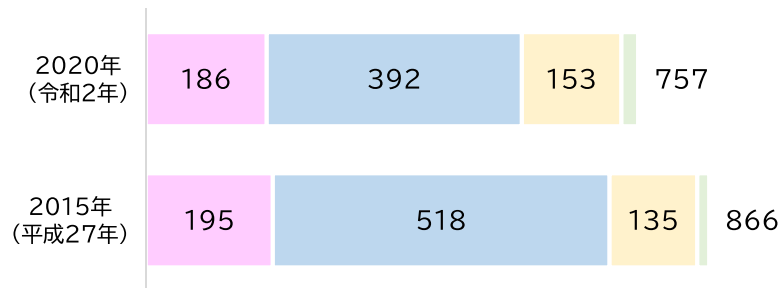
6～8歳



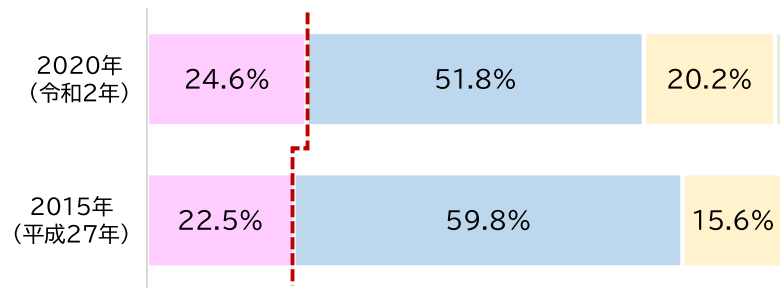
6～8歳



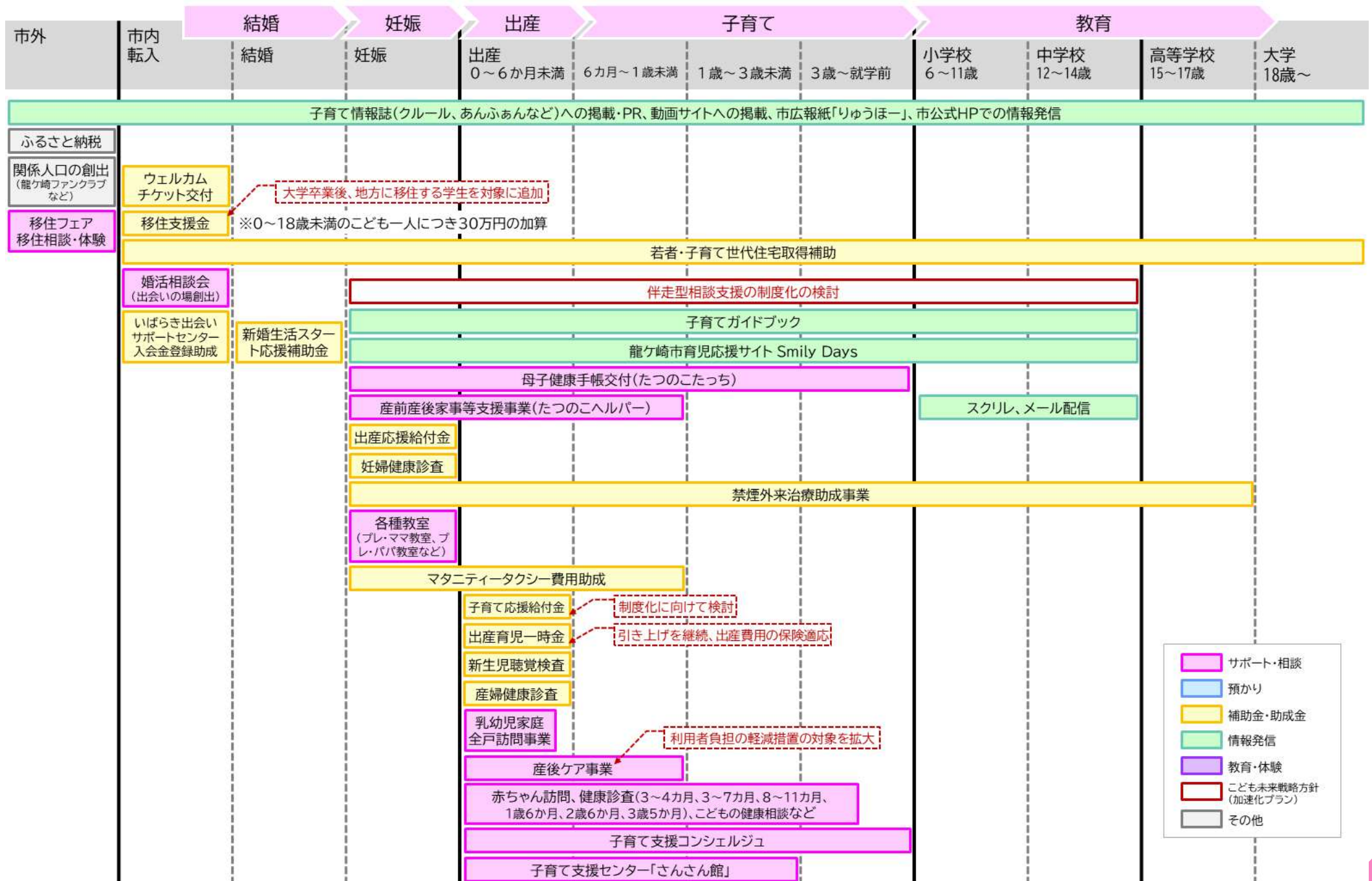
9～11歳



9～11歳



ライフステージに応じた取組(こども未来戦略方針追記)



(その他)
 ○年収の壁(106万円/130万円)への対応
 ○住宅支援の強化(公営住宅へ子育て世代を優先的に入居)
 ○空き家の活用
 ○長期固定金利の住宅ローン(フラット35)にポイント制を活用
 ○こども大綱の策定過程で、更にきめ細かい対応を議論
 ○男性育休の取得促進
 ○意識改革

